

令和2年度東員町教育委員会 事務事業点検・評価報告書

令和3年7月
東員町教育委員会

目 次

	ページ
I 令和2年度点検及び評価実施方針	1
II 教育委員会の運営状況	2
III 事業の点検評価	
・教育総務課に係る主要事業	6
・学校教育課に係る主要事業	8
・社会教育課に係る主要事業	16
IV 学校（幼稚園・保育園、小学校、中学校）の評価	20
V 評価委員会の意見	21

I 令和2年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、東員町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

令和2年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

第5次東員町総合計画を踏まえた令和2年度東員町教育基本方針に基づき、令和2年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

したがって、令和2年度の東員町教育委員会の全ての運営状況及び事務事業の執行状況について、自己点検評価を行ったものではない。

(2) 学識経験者の知見の活用

東員町の教育に関して、学識経験を有する次に掲げる学識経験者から教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、二次評価・外部評価結果として本書に記載する。

(学識経験者)

氏 名	備 考
小 林 慶 太 郎	四日市大学副学長
伊 藤 頼 子	元小学校校長
中 西 水 季	総合文化センター運営審議会委員・社会教育委員

(3) 議会への報告及び公表

点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告し、ホームページへの掲載、窓口への備え付け等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、5名の委員により毎月定例会議を開催し、教育基本方針をはじめ、条例・規則等の制定や教育予算など重要な案件を審議しました。また、新型コロナウイルス感染症対策について把握するため、小学校、中学校及び幼稚園・保育園の教育現場を視察しました。

(1) 委員構成

令和3年3月31日 現在

氏名	住所	役職	備考
岡野 譲治	六把野新田	教育長	
向山 節雄	笹尾東2丁目	職務代理者	元学校長
三貫 納幸	城山1丁目	委員	元PTA役員
木村 陽一	大木	委員	会社員（保護者代表）
松宮 あけみ	笹尾東3丁目	委員	元養護教諭

(2) 教育委員会開催状況（定例会教育委員会）※詳細は資料編掲載

開催数	審議内容							報告	後援	合計
	議案									
	人事	条例制定	規則制定	要綱制定	規程制定	予算編成	その他			
12回	2件	6件	3件	3件	2件	7件	6件	21件	16件	66件

(3) 委員研修状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため未実施。

(4) 学校訪問

実施日	実施場所	実施内容
令和2年6月22日	東員第一中学校、城山小学校	令和2年度取組状況の説明 新型コロナウイルス感染症対策について、学校現場を視察しました。
令和2年9月24日	神田幼稚園・東員保育園	令和2年度取組状況の説明 新型コロナウイルス感染症対策について、幼稚園・保育園現場を視察しました。

2 令和2年度年度東員町教育基本方針

東員町第5次総合計画に基づき、「みんなが喜び、輝き、幸せを実感できるまち東員」を実現するために、「子育てを楽しめるまち、東員」「3感を育む教育のまち、東員」「住み続けたいまち、東員」を目指して、幼児教育、学校教育、社会教育の充実に努め、時代的ニーズと社会の変化を的確にとらえた教育行政の諸事業を推進しました。

また、生涯にわたる人間形成の基礎、つまり「生きる力」の土台となる基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感を育み、子どもたちの「意欲」を高めることに主眼を置き、3つの提言として、“読み解く力・伝える力の育成”、“関わり合い学び合う力の育成”、“16年一貫教育プランの実践と共有”を掲げ、取り組みを推進しました。

3 事務局体制

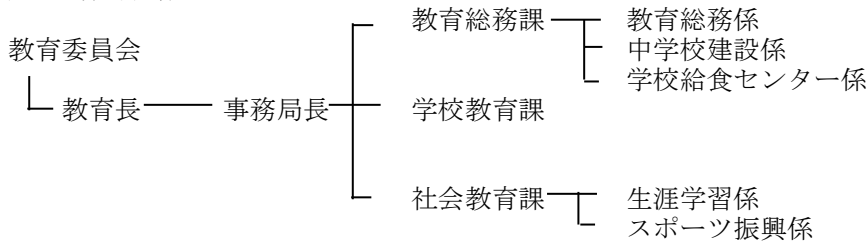
教育行政の推進を図るため、東員町教育施策大綱及び東員町教育基本方針に基づき諸施策を実施しました。

教育総務課では、教育委員会の事務、学校施設の整備・改修や日常の維持管理の他、東員第一中学校の移転整備事業、学校給食センターの管理・運営を行いました。

学校教育課では、学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的な指導を行うと共に、少人数指導や特別支援教育推進のために人的配置などの諸施策を実施しました。

社会教育課では、文化振興と生涯学習、スポーツの充実を図るため、各種外郭団体と協働で諸施策を展開すると共に、体育施設の適正管理や図書館の充実に努めました。

(1) 事務局組織



(2) 職員数の状況

(単位：人)

	課長 副課長	課長補佐 主 幹	係長 主 査	主任	主 事	会計年度 任用職員	合 計
事務局長	1						1
教育総務課	2	2	2	0	1	1	8
学校教育課	2	3	0	0	2	2	9
社会教育課	3	2	1	0	1	5	12
合 計	8	7	3	0	4	8	30

(3) 外部職員数の状況

(単位：人)

幼稚園	園 長	副園長	教 諭		支援員	計	保育園	園 長	副園長	保育士		支援員	調理員	計	幼保 合計
			正規	フルタイム						正規	フルタイム				
三 和	1	(1)	3	0	0	4	みなみ	(1)	1	3	6	2	1	13	17
稲 部	1	1	3	0	1	6	いなべ	(1)	(1)	4	8	4	1	17	23
神 田	1	(1)	3	0	3	7	東 員	(1)	1	8	9	4	2	24	31
笹尾西	1	1	3	0	2	7	笹尾第一	(1)	(1)	3	4	4	1	12	19
笹尾東	1	1	3	0	2	7	笹尾第二	(1)	(1)	5	5	0	1	11	18
城 山	1	1	3	0	3	8	しろやま	(1)	(1)	2	7	2	1	12	20
合 計	6	4(2)	18	0	11	39	合 計	(6)	2(4)	25	39	16	7	89	128

※幼保一体化のため園長・副園長の()は幼稚園・保育園をそれぞれ兼務する。

職員数は幼保合せて配置調整し、園児数によって増減する。

(単位：人)

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	非常勤講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
三和	1	1	10	4	1	0	0	1	18	4	2	1	7	25
稲部	1	1	16	3	1	1	0	1	24	3	4	1	8	32
神田	1	1	24.5	3	1	0	0	1	31.5	3	8	1	12	43.5
笹尾西	1	1	11	2	1	0	0	1	17	3	2	1	6	23
笹尾東	1	1	12	3	1	0	0	1	19	3	4	1	8	27
城山	1	1	12	4	1	0	0	2	21	4	5	1	10	31
合計	6	6	85.5	19	6	1	0	7	130.5	20	25	6	51	181.5

(単位：人)

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	非常勤講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
東員第一	1	1	25	7	1	0	0	1	36	4	4	1	9	45
東員第二	1	1	16.5	6	1	1	0	1	27.5	7	3	1	11	38.5
合計	2	2	41.5	13	2	1	0	2	63.5	11	7	2	20	83.5

※1 数値は、学級数及び教職員定数（国・県費・町費）、講師等配置確認表から取得。

※2 教諭には再任用、臨時的任用講師を含む。

※3 町費教職員非常勤講師のうち29人は、県費教職員非常勤講師を兼務する。

※4 用務員には委託職員（（社）シルバー人材センター）を含む。

(4) 教育予算の推移（歳出）

(単位：千円)

区分	H29（決算）	H30（決算）	R1（決算）	R2（決算）
学校教育	1,411,317	1,441,109	1,490,673	1,980,989
社会教育	275,504	209,925	190,376	221,586
合計	1,686,821	1,651,034	1,681,049	2,202,575
町一般会計	7,780,022	7,639,101	7,938,869	11,401,319
教育費割合（%）	21.7	21.6	21.2	19.3

(5) 指導主事による要請訪問の状況

指導主事2人が、園・学校の研修会や国語の読解力・書く力向上、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の研修会等に出向き、授業改善に取り組むとともに、いじめなど問題行動対応、16年一貫教育プラン学習会講師など学校教育に関する専門的な指導や助言を行い、教員の指導力の向上や研修の充実を図りました。また、初任者教員への指導・助言を行いました。

指導主所要請訪問回数は学習会も含めて下記のとおりです。

区分	幼稚園・保育園	小学校	中学校	合計
要請訪問回数	6回	5回	2回	13回

※表内の数字は、指導主事2人で訪問した回数を表しています。

教育予算の推移（歳出）の明細

（単位：円）

区	分	H29（決算）	H30（決算）	R1（決算）	R2（決算）
学校教育	保育園費	394,961,542	381,879,257	390,922,102	512,319,194
	保育園管理費	14,193,223	21,420,445	27,888,429	35,705,379
	教育総務費	151,974,154	227,295,636	246,532,989	282,087,331
	小学校費	192,554,169	187,739,158	153,520,906	429,489,009
	中学校費	96,586,760	94,847,372	113,119,431	196,702,096
	幼稚園費	269,551,079	268,683,734	275,918,770	265,312,992
	学校給食費	291,496,559	259,243,133	282,769,858	259,373,328
	計	1,411,317,486	1,441,108,735	1,490,672,485	1,980,989,329
社会教育	社会教育費	165,178,361	119,479,672	108,759,868	137,548,555
	保健体育総務費	21,068,567	1,039,919	766,944	552,671
	保健体育振興費	89,256,568	89,405,974	80,849,209	83,484,859
	計	275,503,496	209,925,565	190,376,021	221,586,085

※平成30年度より、社会教育費、保健体育総務費の人員費は教育総務費に計上しています。

Ⅲ 事業の点検評価

令和2年度教育委員会の主要事業について、教育委員会自らの点検評価は次のとおりです。
なお本町の特徴として、幼保一体教育を実施しており、評価も教育・保育にまたがっております。

教育総務課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
教職員健康管理事務	1,476 千円 0.08 人	<p>学校教諭及び用務員の定期健康診断を実施し、健康の保持・増進を図るとともに、産業医と契約し、過重労働対象者に対する面接指導を行いました。個々の勤務状況等を聞き取り、働き方・生活習慣の改善を提案し、心身のケアを図り、円滑な学校教育の推進に努めました。今年度は、延べ8人（実5人）の教員に面接指導を実施し、時間外勤務短縮等の取り組みを強化します。職場環境の改善では、休憩室にエアコンを設置し、採点支援システムやデジタル印刷機を導入しました。</p> <p>また、教育長、産業医、教職員及び町職員で構成された総括安全衛生委員会を2回開催し、教職員の過重労働対策並びにストレスチェックについて協議し、さらには、公務災害の未然防止や認定請求の徹底について注意喚起を行いました。</p>
東員保育園高圧受変電設備修繕	232 千円 0.02 人	<p>保育園では、消防施設、電気設備及び遊具等の保守点検、並びに老朽化した施設の修繕を行い、園児の安全・安心な園生活の向上に努めました。</p> <p>また、施設を中長期的に維持管理するため安全性を調査し、個別施設計画（長寿命化計画）を策定しました。</p> <p>さらには、東員保育園の保育室等の空調設備改修工事を実施し、安全な園運営を推進しました。</p>
保育園劣化度診断調査業務委託	2,001 千円 0.25 人	
東員保育園園児室等空調設備改修工事	13,200 千円 0.10 人	
神田小学校・笹尾西小学校プールろ過機修繕	2,860 千円 0.05 人	<p>小学校では、消防施設、電気設備及び遊具等の保守点検、並びに老朽化した施設の修繕を行い、児童の安全・安心な学校生活の向上に努めました。</p> <p>また、施設を中長期的に維持管理するため安全性を調査し、個別施設計画（長寿命化計画）を策定しました。</p> <p>さらには、児童が一人1台のタブレット端末を持ち十分に活用できる環境を目指し、GIGAスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備しました。</p>
小学校劣化度診断調査業務委託	2,805 千円 0.25 人	
GIGAスクール構想校内通信ネットワーク等整備工事	74,263 千円 0.35 人	
東員第二中学校非常放送設備修繕	1,183 千円 0.02 人	<p>中学校では、消防施設及び電気設備等の保守点検、並びに老朽化した施設の修繕を行い、生徒の安全・安心な学校生活の向上に努めました。</p> <p>また、施設を中長期的に維持管理するため安全性を調査し、個別施設計画（長寿命化計画）を策定しました。</p> <p>さらには、生徒が一人1台のタブレット端末を持ち十分に活用できる環境を目指し、GIGAスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備しました。</p>
中学校劣化度診断調査業務委託	935 千円 0.25 人	
GIGAスクール構想校内通信ネットワーク等整備工事	26,618 千円 0.15 人	
幼稚園消防設備修繕	105 千円 0.02 人	<p>幼稚園では、消防施設、電気設備及び遊具等の保守点検、並びに老朽化した施設の修繕を行い、園児の安全・安心な園生活の向上に努めました。</p> <p>また、施設を中長期的に維持管理するため安全性を調査し、個別施設計画（長寿命化計画）を策定しました。</p>
幼稚園劣化度診断調査業務委託	2,001 千円 0.25 人	

事業名	決算額 職員数	点検・評価
東員第一中学校移転用地鑑定評価業務委託	829 千円 0.05	東員町学校施設整備基本構想をもとに、東員第一中学校移転整備を計画し、各地権者との事前交渉、都市計画、農政部局等と協議を行いました。 また、三重大学と移転事業についての共同研究を実施したほか、測量、地質調査等の移転設計調査を行いました。用地交渉が継続しており、調査業務の一部を取り止めました。
東員第一中学校移転設計調査業務委託	8,858 千円 0.30	
東員町立小中学校と公共施設の協動的運営に関する研究	2,100 千円 0.15	
学校給食センター運営事業	259,373 千円 2.0 人	<p>小中学校の児童・生徒や保育園・幼稚園の3歳以上を対象（教職員を含め約3,100食分/日）に、健康で豊かな学校・園生活が送れるよう、栄養教諭の指導により、安全・安心で栄養バランスのとれた豊かでおいしい給食を提供しました。</p> <p>学校給食の食材費は、保護者負担となっており、給食費として納入いただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い保護者の経済的負担を軽減するため、子育て世代の支援策として、保育園・幼稚園及び小中学校の給食費を6月から12月まで無償化としました。</p> <p>調理業務及び配送・回収業務の民間委託を開始して、8年目を迎えました。調理業務では人員の効果的・効率的配置による正確な調理に加え、食材の品質管理や衛生管理が向上し、配送業務においても衛生管理や車両の点検など危機管理が徹底され、安定かつ確実に給食を各学校等に届けることができました。</p> <p>配送・回収業務につきましては、委託の更新年度であったため、一般競争入札による入札の結果、引続き同じ事業者により令和7年度までの5年間の委託業務を継続することになりました。</p> <p>食育、給食指導につきましては、栄養教諭が各担当の受配校の児童・生徒に対して指導を行いました。児童たちが食への興味や関心を持ち、食事の重要性・喜び・楽しさ等を身につけられるように各小中学校と共に計画的な食育等を進めました。</p> <p>給食センターでは、園児が自分たちの食べている給食がどのように作られているかを学ぶため、希望する幼稚園に対して施設見学会を実施しました。</p> <p>さらに、教育の一環として、勤労体験学習を行っている小中学校に対しては、児童・生徒の受け入れを行い、実際に調理室に入って仕事を体験していただき、給食ができるまでの工程について学んでいただいております。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として4月15日から5月末まで小中学校の臨時休校措置がとられ、給食が中止となりました。</p>

学校給食費収納状況

年 度	調定額	収入済額	収入未済額	未納件数	収納率
令和2年度	39,993,452 円	39,181,842 円	811,610 円	71人	97.97%
令和元年度	125,700,498 円	124,726,408 円	974,090 円	93人	99.23%
比 較	-85,707,046 円	-85,544,566 円	-162,480 円	-22人	-1.26%

※令和2年度調定の内訳としましては、4月が5日分と1月から3月までの3ヶ月分の調定額です。
給食費負担の公平性を確保するため、未納対策においては「未納対策マニュアル」に基づき、口座振替不能者に対しては振替不能通知を送付し、3ヶ月以上の未納者に対しては催告書を送付しました。また、電話による納付勧奨や戸別訪問により徴収を行うなど適切な措置に努めました。

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
保育園運営事業	<p>92,151千円 正職 27人 フルタイム 40人</p>	<p>保育園では、就労や疾病などにより家庭で保育を行えない保護者の代わりに、園児の保育をしています。 令和2年度の保育園は計656人（0～5歳児、3月31日時点）の園児を受け入れ、3歳以上児では幼稚園児との合同保育を実施しました。 各園で、各年齢の発達段階に応じた保育・教育を行い、子どもの健康と健全な成長が保障されるよう努めました。特に乳児期には、保護者や保育者との間に生まれる基本的信頼感をしっかりと育むこと、幼児前期では、しつけの中で自律性を育むこと、幼児後期では、遊びを通じて自主性を育むことを第一の目標に掲げながら運営してきました。これは、16年一貫教育プランの保育教育理念に則ったものであり、子どもたちの生きる意欲を高める保育となっています。 また、特別な支援を必要とする園児については、保育支援員（計16人）を配置し、個に応じた支援を行いました。ここ数年、支援を必要とする園児が増加傾向にあります。予算の関係上、限られた支援員で子どもをみていくための知恵と工夫が必要と考えます。 土曜日保育は、東員保育園を拠点園として通常の時間帯で実施しました。職員配置の面で課題はありますが、3月末時点の登録者は107人で、実際に登園する園児数は日によって異なりますが、1日平均でおよそ48人となりました。</p>
ALT派遣事業	<p>233千円 0.11人</p>	<p>中学校に2人（一中、二中に各1人）、小学校に1人（小学校6校を巡回）、計3人のALTを配置し、中学校の英語教育及び小学校の外国語活動（3・4年）英語を中心とした外国語（5・6年）の充実に努めました。 小学校英語専科教員2人（中学校英語科免許所有の小学校教諭）とティームティーチング（以下TT）で授業を行い、子どもたちが英語に慣れ親しみ、基礎的な英語力や対話力を高めることで成果がありました。 また、学期毎に中学校からALTを各園（幼稚園・保育園）に派遣し、5歳児を中心に英語に親しむ遊びや活動を行い、幼児期から英語に慣れ親しむ機会を設けました。 中学校の英語科では、教諭とTTで授業を行い、ネイティブスピーカーとしてだけでなく、生徒のリスニング、スピーキング練習、会話の練習、英文の添削指導や暗唱指導、英検受検者の模擬試験（会話・応対）等を行い、生徒の英会話やリスニング能力の育成に取り組みました。 小学校では、今年度より新学習指導要領に基づき、3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間の外国語の授業を実施しました。各専科教員とALTがTTを行い、生の英語の音声で基本的な表現を学んだり、歌やゲームを取り入れて楽しみながら活動したりしました。 英語での対話に慣れ楽しみながら学習したり、日常の中で生きた英語に触れる機会を充実させ、異文化を理解し協調する姿勢を育成したりするとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきます。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価															
特別支援教育事業 (巡回相談員派遣事業)	1,480千円 0.02人	<p>専門的な資格(臨床心理士及び特別支援教育士・公認心理師)を持った巡回相談員2人を派遣しました。臨床心理士は、幼稚園・保育園・小学校・中学校へ出向いての巡回指導、公認心理師は、教職員や保護者等を対象とした教育相談を実施しました。</p> <p>巡回相談においては、各園校の気になる子ども達の保育や授業での姿を観察した上で、その子ども達に応じた支援のあり方について、担任への助言・指導を行いました。希望された保護者には保護者面談も実施しました。教育相談では、知能検査(WISC-IV)の実施、相談員からは保護者や教職員に向けて、具体的に支援の方法について助言を行いました。</p> <p>(巡回相談の状況) (人数)</p> <table border="1" data-bbox="769 698 1439 801"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>幼・保</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回相談</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>12</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>教育相談</td> <td>0</td> <td>77</td> <td>6</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>巡回相談や教育相談での助言を基に、各園校において個別の指導計画を作成し、児童生徒の状況に応じた取り組みを行っています。</p> <p>また、特別支援教育コーディネーターのスキルアップを図るため、年間2回の研修会を行いました。中学校の事例について考える「事例さかのぼり研修」の研修会を実施しました。講師に町の相談員(臨床心理士及び特別支援教育士)を招き、中学校からの事例提供をもとに、生徒の困り感とその要因を探った上で、発達課題に応じた支援方法について考え合いました。実際の中学校段階の姿だけではなく、幼児期からの育ちや環境等についてもさかのぼって考え合いました。また、臨床心理士から具体的な支援方法について助言を得て、特別支援教育の観点と共に各園校での実践へと還元され、児童生徒の困り感を軽減することへつなぐことができました。</p>	内容	幼・保	小学校	中学校	その他	巡回相談	30	37	12	-	教育相談	0	77	6	-
内容	幼・保	小学校	中学校	その他													
巡回相談	30	37	12	-													
教育相談	0	77	6	-													
特別支援教育事業 (学習支援員活用事業)	53,687千円 0.02人	<p>学習支援員を小中学校に合計32人配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒を中心に、個に応じた支援を行いました。また、より専門的な知識をもとに支援できるよう全ての支援員とコーディネーター対象に研修を実施しました。</p> <p>今後は、さらに特別な支援が必要な児童生徒が増えていくことから、特支学級の担任の指導力が向上すること、各校のコーディネーターがしっかりと機能すること、支援員を有効に配置していくこと等が重要となってきます。</p> <p>よって、引き続き、より充実した特別支援教育が実施できるよう、サポートファイルにある個別の支援計画・指導計画をもとに、保護者、担任、支援員の連携を充実させながら、個々のスモールステップを目標に学習支援を進めていきたいと考えます。</p>															
学力向上推進事業 (学力調査活用事業)	2,909千円 0.05人	<p>児童生徒の学力の定着状況を把握するために、総合学力調査(I R T)を実施しました。なお、年度初めの臨時休業(休校)を受けて、4月から6月実施に変更しています。対象学年及び教科は以下のとおりです。</p> <p>【6月】 小6:社・理</p> <p>【11月】 小1, 2, 3:国・算</p>															

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価																																																																							
		<p>2月 全国 / 東員町 (達成率) 社会 : 64.8 / 60.0 (92.6%)</p> <p>【中3】 6月 国語 : 58.7 / 61.4 (104.6%) 数学 : 50.8 / 53.5 (105.3%) 英語 : 54.9 / 57.5 (104.7%) 社会 : 55.3 / 55.4 (100.2%) 理科 : 57.6 / 60.6 (105.2%)</p> <p>小学校は、毎年安定した結果となっています。これは毎回、調査結果を各校がしっかりと分析・把握し、調査結果の4階層についてD層（低学力層）児童10%未満を目標に、D層児童を軸にした授業改善や個別の指導・支援の充実に取り組んだ成果と考えます。</p> <p>また、例年課題とされてきました中学校の理科や社会については、一定の改善がみられました。これは、中学校でも課題教科を研修に位置づけ、分析や授業改善を続けてきた結果と考えています。</p>																																																																							
<p>学力向上推進事業 (少人数教育推進事業)</p>	<p>14,057千円 0.02人</p>	<p>小中学校に少人数指導、教科指導等を行うための非常勤講師を配置しました。小学校では県費非常勤講師と組み合わせ、算数を中心に習熟度別指導、チームティーチング等を行いました。中学校では定数配置が不可能な教科を中心に任用し、持ち時間の調整を行い県費の非常勤講師と組み合わせ、数学、英語を中心にチームティーチング等を行いました。</p> <p style="text-align: right;">R2.4現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3">校種</th> <th colspan="2">定数</th> <th colspan="2">県非常勤</th> <th colspan="2">町非常勤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>7.5人</td> <td>3人(32h)</td> <td>12人(63h)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>2.5人</td> <td>3人(40h)</td> <td>4人(23h)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※初任研関係非常勤講師は除く ※人数は辞令上の延べ人数</p> <p>学力がA層・D層の2極化にならないよう個に応じたきめ細やかな指導の結果が以下のとおりです。</p> <p style="text-align: right;">R2.11現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">校種</th> <th rowspan="2">教科</th> <th colspan="6">D層10%未満達成校数</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>国語</td> <td>0校</td> <td>2校</td> <td>1校</td> <td>3校</td> <td>2校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>3校</td> <td>1校</td> <td>4校</td> <td>2校</td> <td>0校</td> <td>1校</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">R2.11現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">校種</th> <th rowspan="2">教科</th> <th colspan="3">D層10%未満達成校数</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>国語</td> <td>0校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>1校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table>	校種			定数		県非常勤		町非常勤		小学校	7.5人	3人(32h)	12人(63h)					中学校	2.5人	3人(40h)	4人(23h)					校種	教科	D層10%未満達成校数						1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校	国語	0校	2校	1校	3校	2校	2校	算数	3校	1校	4校	2校	0校	1校	校種	教科	D層10%未満達成校数			1年	2年	3年	中学校	国語	0校	0校	0校	数学	1校	0校	0校
校種			定数		県非常勤		町非常勤																																																																		
小学校	7.5人	3人(32h)	12人(63h)																																																																						
中学校	2.5人	3人(40h)	4人(23h)																																																																						
校種	教科	D層10%未満達成校数																																																																							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年																																																																		
小学校	国語	0校	2校	1校	3校	2校	2校																																																																		
	算数	3校	1校	4校	2校	0校	1校																																																																		
校種	教科	D層10%未満達成校数																																																																							
		1年	2年	3年																																																																					
中学校	国語	0校	0校	0校																																																																					
	数学	1校	0校	0校																																																																					
<p>学校図書館支援事業</p>	<p>3,281千円 0.02人</p>	<p>①専門員の勤務について ・1日5時間30分勤務 ・神田小学校→71日勤務(週2日) ・その他の小学校→36日勤務(週1日)</p> <p>②主な業務内容</p>																																																																							

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>図書室の利用率向上、使用に関する環境整備を行いました。授業支援としては、読み聞かせ、課題図書を紹介、読書感想文の書き方指導等を行うことで、効果的な児童への学習・読書を支援しました。</p> <p>また、図書委員会活動の支援、読書登山ブックリストの活用にも携わり、児童の主体的な読書活動の推進に努めました。</p> <p>③ 1 勤務日あたり平均貸出冊数の推移（過去 5 年間） 平成28年度→ 60.12冊（前年度比+ 6.4%） 平成29年度→ 69.34冊（前年度比+15.3%） 平成30年度→102.33冊（前年度比+47.5%） 令和元年度→ 96.66冊（前年度比- 5.6%） 令和2年度 →103.69冊（前年度比+ 7.3%）</p> <p>※図書館専門員勤務日に集計した貸出冊数をもとに、1 勤務日の貸出冊数の平均値を表したものの。（参考）平成30年度より中学校配置を廃止。</p>
16年一貫教育プラン 実践事業	1,857千円 0.03人	<p>本プランは8年目に入り、本プランの実現に向けて5段階の取り組みを進めようと考えております。現在は第3段階です。</p> <p>第1段階：方針を策定し予算を獲得する 第2段階：教職員への研修、理論に基づく実践の展開 第3段階：家庭への啓発と発信、家庭での実践の展開 第4段階：子どもの意欲的な姿、家庭での習慣化の実現 第5段階：子どもの顕著な変化（意欲、社会性、共感力の獲得）が起こり、成果と課題が明確化され、それが全国へ発信できるまでのレベルになる</p> <p>（第3段階における目標指数） 子育てのポイントを意識している保護者の割合：70% （具体的な取り組み）</p> <p>①子育て手引き版、子育て手引き版（中学生用）を活用した保護者対象の学習会 ②園や学校だよりによる保護者啓発 ③園校職員と保護者の本プランを意識した子育て・保育・教育実践の交流 （A小学校調査による肯定意見の経年変化） 平成30年度（35%） 令和元年度（68%：内訳 A19%、B49%、C27%、D5%） 令和2年度（66%：内訳 A15%、B51%、C26%、D8%）</p> <p>今年度は、中学生（思春期）の子育てに課題や不安を抱えている保護者に対して、昨年度に作成した「子育ての手引き版（中学生用）」を活用し、子育て学習会にて「思春期の子育てのポイント」を伝えています。</p> <p>また、今年度「東員英語検定テキスト」を作成し、全小学校の外国語活動（3,4年）外国語（5,6年）で使用しながら、4技能の育成に向けた英語授業を行い、合わせて東員英語検定も実施しました。</p>
特色ある学校づくり事業	1,200千円 0.02人 ※ 小学校 200千円 中学校 300千円	<p>地域や子どもたちの状況に応じた学校独自の教育を支援するため、特色ある学校づくり事業を推進しました。各校が専門講師や地域の方を招聘したり、長年続いている伝統的な行事を推進しました。</p> <p>《各校ごとの主な特色ある取り組み》</p> <p>【三和小】 『体験活動を通じて豊かな心を育む教育推進事業』では、1・2年生がさつま芋を育て、収穫した芋を使い、おにまんじゅう・いもきんときを作りました。野菜づくりを通じて、食の大切さや作り手の思いが理解できたと考えます。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>また、『確かな学力を育成する教育推進事業』では、2学期に実施したIRT学力調査では、算数の全国平均スコアを0.3ポイント、東員町の平均スコアを2.7ポイント上回る結果となりました。昨年度よりスタートした算数科の研修で確かな学力を身につけるための授業研究を推進することで、さらなる積み上げがはかれると考えます。</p> <p>【稲部小】 『学力向上推進事業』では、主体的な学びとは、どのような学びの姿をいうのかを教師が十分に理解し獲得しなければ、授業において子どもの学びが成立しないという理念に基づき、研修に取り組みました。 今年度も三重大学教育学部岡野教授を招聘し、授業での子どもの姿を通して「学びの共同体」の理念を学ぶ校内研究会を実施しました。授業中の子どもの姿の映像をもとに振り返る研究会は説得力があり、反省することも多いため、継続することで学力の向上させる授業につながると考えます。</p> <p>【神田小】 『学力向上推進事業』では、浜松学院大学短期大学部幼児教育科の志村浩二教授をお招きし、臨床心理士の観点から、児童・保護者との信頼関係づくりについての研修会を行いました。 研修では、不登校気味な児童がどのような状態にあるのかを細かく洗い出して、その子や保護者へのアプローチする方法を過去の事例を鑑み検討し、発展的な課題や共有課題の作成に取り組むことができ、授業力の向上に繋がったと考えます。</p> <p>【笹尾西小】 『学力向上推進事業』では、主題である「子ども達が分かる喜びを感じ、自らさらに学ぼうとする力をつけていく」を達成するため、「学びの共同体」を軸にした授業研究に取り組みました。元三重北小学校校長の岡本雅代先生と指導主事の先生方を招き、子ども同士のつながりの中で、共に学び合う授業の創造を目標に、教科の本質や単元の特性を生かした課題を設定し、教師の役割である「聴く－繋ぐ－戻す」を意識した授業づくりを実践しました。 授業での子どもの具体的な姿をもとに、子どもの学びの成立を促すための課題の在り方や教師の役割を実践化することで、授業力の向上させることができたと考えます。</p> <p>【笹尾東小】 『「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくり事業』では、岐阜聖徳学園大学の河合昌宣先生と玉置崇先生を講師として招き、研修会を行いました。授業では、ペアやグループとなって、課題について意見を出し合い、司会者が質問をして、それぞれがもう一度、自分の考えを見つめます。そうすることで子どもの考えにつながり、対話が生まれ「主体的・対話的で深い学び」につながったと考えます。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>【城山小】 『教師の授業力向上推進事業』では、新学習指導要領の理念である「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を深めるため、横浜国立大学の高木名誉教授を招聘して学びました。3回訪問していただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、来校による指導は1回、授業ビデオの送付により1回のご指導いただきました。全クラスの授業を視ていただき、今度の目標や授業の構成等も含めて詳しく指導していただいたことで、授業力が向上したと考えます。</p> <p>【東員一中】 『学力と対人力の育成事業』では、岐阜聖徳学園大学の玉置教授に2回来校いただき、撮影した教師や生徒の様子を見ながら振り返る研修を行いました。指摘のあった全体的な課題は、「授業で起こる場面の説明を教師ではなく、生徒に任せる」でした。教師が授業で何気なく説明していることを、生徒に任せてみることで、必然的に「子ども達をつなぐ」場面が作られるということを教えていただきました。「ここは子ども達に任せてみよう」を実践することで、授業力が向上したと考えます。</p> <p>【東員二中】 『コミュニケーション・体験事業』では、元プロ野球選手の柴田章吾氏に講演していただきました。柴田氏は、中学3年生の時に難病を患い、一時は野球を続けるどころか、命の危険もあった。なぜ自分だけがと他人を恨み、八つ当たりをしていたが、母に教えられた「ありがとう」という言葉を使う事で考え方が一変したと話された。生徒達は、柴田氏の何事もポジティブに考える前向きで強い生き方に触れられた事で、進路や仲間のことを考える良い学びになったと考えます。</p>
東員町いじめ問題対策事業	137千円 0.02人	<p>東員町いじめ問題対策連絡協議会と、東員町いじめ問題調査委員会を開催しました。 東員町いじめ問題対策連絡協議会は、2回開催しました。なお、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県・法務局桑名支局長 ・中学校区スクールカウンセラー ・三重県いなべ警察署生活安全課長 ・東員町校長会小学校会長 ・東員町校長会中学校会長 ・東員町社会福祉協議会長 ・東員町青少年育成町民会議会長 ・東員町主任児童委員会代表 ・東員町人権擁護委員長 <p>第1回では、令和元年（平成31年）度の国の問題行動等調査の比較結果と、開催時点でのいじめの発生状況等について報告しました。 ＜令和元年度認知件数（件）＞（1000人あたりの認知件数） （小学校）国：75.8 県：25.6 町：23.4 （中学校）国：32.8 県：18.4 町：8.9 第2回では、今年度（開催時点）の「いじめ」の発生</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>状況、事案の内容を報告しました。発生件数が昨年度より減少傾向にあり、重大な事案もありませんでした。 東員町いじめ問題調査委員会は、1回開催しました。 なお、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇學館大学名誉教授 ・三重くわな法律事務所 弁護士 ・北勢病院精神科医 ・臨床心理士、学校教育巡回相談員 ・元小学校長、教職員指導力向上対策指導員 ・元幼稚園長、人権擁護委員 <p>今年度（開催時点）の「いじめ」の発生状況、事案の内容について報告しました。協議の中で、解消に向けた組織的な取り組みや対応の重要性、子どもが安心して過ごせる環境設定、保護者への子育て支援等について、委員より助言をいただき意見交流を行いました。</p>
幼稚園運営事業	22,093千円 正職 28人	<p>幼稚園は、学校教育法に基づく「学校」として、小学校以降の学習生活の基盤を培う重要な役割を担っています。特に、3歳以降の幼児後期においては、自分で考え行動することを覚える時期であり、遊びを通じて自主性を育てていかなければなりません。自ら選んだ遊びを通じて子どものやろうとする気持ちを大切に、未知なるものへの自発的な探求心を育み、目的を持って積極的に取り組む力をつけるための教育・保育に取り組みました。また、特別な支援が必要な園児には、保育支援員11人を配置し、個に応じた支援を行いました。その他にも小学校へのスムーズな接続をするため、集団を意識した全体活動を大切にしています。幼保一体化施設と各園が小学校と隣接しているという利点を生かしながら、幼保小の連携も充実させることができました。</p>
総勤務時間の縮減に係る取組		<p>【幼稚園・保育園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務量の削減（個人ノートの簡素化等） ・環境整備、教材準備時間の削減（園の美化清掃や、お手玉等の玩具づくりを保護者にも協力していただく） ・定時退園日の設定（1週間に1日はノー残業デーを実施） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比3日以上取得増を目指す。 ※平均 11.2日/年 目標15日/年 <p>【小学校・中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮（議題の精選、資料の配付方法等を見直し60分以内で終了） ・定時退校日の設定（毎週金曜日小学校18時、中学校19時） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比2日以上取得増を目指す。 ※平均（小）20.6日/年 目標15日/年 （中）15.4日/年 目標15日/年 ・時間外労働時間の縮減（目標：4H以上/月減） ・学校閉庁日の設定 ・留守番電話の導入 ・タイムカードの導入 ・『東員町立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則及び方針』策定 ・中学校での自動採点システムの導入

社会教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
人権・青少年育成事業 (社会教育諸経費)	2,840千円 0.15人	子どもたちが日常考える個人の夢や希望などを発表することや、大人たちがそれぞれできる役割を考えながら行動することで、互いを思いやり相手を尊重する気持ちを持つことができる社会の構築を目指します。 ・人権講座・講演会（演題：子どもの人権に関すること） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。 ・人権教育青少年育成推進事業（人権標語コンクール他） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

〈青少年の育成：東員町青少年育成町民会議〉

■家庭教育活動

・第34回子育てのつどい

毎年11月に、講演会及び分散会を子ども家庭課と共同で開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

■青少年の自主・自立と社会参加活動、非行防止活動の推進

・第39回町民歩け歩こう大会

毎年スポーツ少年団と共催して開催しています町民歩け歩こう大会は、町民の交流機会を提供し、家族のふれ合いや青少年の健全育成、活力ある地域社会の形成を図る取り組みを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

・第27回青少年の主張

青少年の自主性と自立性を育てるとともに、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力を身に付けるなど、同世代意識の啓発及び青少年の健全育成を図る取り組みを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

・パトロールの実施

年間を通して、青少年の非行を未然に防止し、住民の意識高揚を図ることを目的に、夜間パトロールを実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により一部の校区を除き中止となりました。

笹尾校区 70人、城山校区 29人（神田、稲部、三和校区は中止）

■健全育成啓発活動の推進

・街頭啓発活動の実施

毎年青少年の健全育成を図るため、町主催の行事や各種イベント会場で啓発チラシ等の配布や声かけなどを行い、青少年健全育成への協力と意識の高揚を図る取り組みを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種イベントの中止により実施できませんでした。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
成人式事業 (成人式経費)	417千円 0.33人	新成人で組織する成人式実行委員会が中心となって、2部構成の式典内容で取り組んでいただきましたが、新型コロナウイルス感染者数の増加傾向を鑑み、新成人実行委員会と協議した結果、第1部の式典のみの開催となりました。 開催日 令和3年1月10日(日) 対象者数 281人 出席者数 213人(出席率 75.80%)

事業名	決算額 職員数	点検・評価
文化事業 (文化事業イベント経費)	13,969千円 0.61人 ※入場料収入 2,135千円	本町の芸術文化の高揚と地域文化の振興を図るため、東員発ミュージカルと東員町音楽祭は、感染防止対策として入場制限を図るなど、万全の態勢で開催することができましたが、こども歌舞伎公演と東員「日本の第九」演奏会は、各団体との協議により中止となりました。 ・第25回こども歌舞伎公演 中止 ・第32回東員「日本の第九」演奏会 中止 ・ミュージカル(第8弾)2回公演 合計入場者数 798人 「Go TO ミュージカル それでも明日の種を蒔こう」 日時 令和2年11月21日(土) 17:00～ 令和2年11月22日(日) 14:00～ ・第39回東員町音楽祭 日時 令和3年2月7日(日) 13:00～ 入場者数206人
総合文化センター維持管理 事業 (総合文化センター維持管 理経費・文化施設整備費)	80,294千円 0.59人	総合文化センターでは、施設利用者が安全安心に利用していただくため、図書館照明のLED化工事及びエレベーター設備改修工事を行いました。また、各設備の保守点検を行い、施設の適正な維持管理に努めました。
公民館諸事業 (公民館諸事業経費)	3,275千円 0.67人	公民館講座は、(一社)東員町文化協会に委託し、中央公民館の各施設を利用し、年間を通して生活に即する教育、技術や知識、文化に関する各種講座を開催しました。 ・公民館講座数 24講座 受講者数 207人 東員こどもカレッジは、小学生を対象として、学校では習わない多様な学びと体験の場を提供し、土日等の休日に体験型講座を実施していましたが、学校の休校や夏休みの短縮など、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。 また、とういんネイチャークラブについても同様に中止となりました。
笹尾コミュニティーセン ター運営事業 (笹尾コミュニティー センター経費)	15,395千円 2.24人	笹尾コミュニティーセンターは、中央公民館の分館であり地域住民の文化活動等の拠点となっています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月18日から5月31日まで臨時休館しましたが、屋上等防水工事をはじめ、1階多目的ホール排煙窓の不具合の修理、熱感知器等消防設備の修理、2階会議室(1)、(2)の木製床の修繕、各設備の保守点検を行うなど、施設の適正な維持管理に努めました。
東員町・大台町子ども交流 事業 (東員町・大台町子ども交 流事業)	0千円 0.04人	町内の小学生(4～6年生)を対象に、夏休み期間を利用して、大台町の大杉谷自然学校で1泊2日の自然体験学習を行い、交流の場の提供と自主的に活動する力を身に付けていただく取り組みを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により夏休みの短縮や交流先との調整が図れないことから中止となりました。
図書館運営事業 (図書館経費)	10,196千円 5.81人	新型コロナウイルス感染症の影響で4月18日から5月17日まで臨時休館となりましたが、町民の読書活動を維持するため感染予防対策を徹底し、その後は通常開館を継続するよう努めました。 また、図書館司書による選書のもと蔵書の充実に努めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、不用図書・雑誌のリサイクル会と人形劇の鑑賞などは中止しました。 なお、ボランティア団体(朗読ひばりの会)による読み聞かせ会は1月から再開し、子ども35人、大人36人の参加がありました。また、学校教育と連携して引き続き「東員町読書登山」による子どもの読書活動の振興に努め、児童サービスの維持を図りました。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
文化財調査委員会事業 (文化財調査委員会経費)	42千円 0.02人	令和3年2月15日(月)に文化財調査委員会を開催し、町指定天然記念物の保護の状況や郷土資料館の運営、事業について審議しました。
文化財保護事業 (文化財保護経費)	1,246千円 0.20人	<p>町指定天然記念物である「トウインヤエヤマザクラ」及び「山田半ノ木谷イヌナシ自生地」等において、樹木医に保護作業を委託し実施しました。</p> <p>また、文化財保存団体補助金は、町指定無形民俗文化財「六把野獅子舞」について、練習も含め、一切の事業が見送られたため交付しませんでした。</p> <p>【トウインヤエヤマザクラ】 トウインヤエヤマザクラ(第1号)後継木は、今春も開花はなく、8月の猛暑の影響により樹勢に衰えが見られたため、樹木医と協議を行い、現地において鉢上げし養生を行いました。第2号は、例年より早い4月初旬に開花しました。引き続き樹木医の管理のもと、挿し木や取り木を実施し次世代育成に取り組みました。</p> <p>【観音もみじ】 年数経過が原因と見られる枝枯れが目立っており、次世代を育成するため種子の採取と種まきを試みました。</p> <p>なお、郷土資料館経費は文化財保護経費へ統合し、城山小学校北校舎1階を郷土資料館として事前申し込み制により運営しています。小学校3校の児童の見学等により入館者数が増加したことから、これを維持しつつ、一層魅力ある資料館を目指します。</p>
ニュースポーツの普及・ 推進事業 (スポーツ推進委員経費)	329千円 0.05人	<p>第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」の開催に伴い、東員町では「フライングディスク」が開催されることから、スポーツ推進委員会では、1月30日(土)、31日(日)に東員町総合体育館で開催された障害者フライングディスク指導者養成講座を受講しました。</p> <p>また、7月19日(日)には、ガールスカウト三重県12団に「ペタンク」の指導を行うなどニュースポーツの普及に努めました。</p>
県スポーツ大会への参加、 町主催のスポーツ大会の 開催 (体育振興経費)	1,084千円 0.24人	<p>東員町のスポーツ振興を担う東員町スポーツ協会へ「町民体育祭」及び「町民駅伝大会」の企画・運営、また三重県主催の「第14回美し国三重市町対抗駅伝大会」に向けての調整等を委託していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により「町民体育祭」、「第14回美し国三重市町対抗駅伝大会」は、中止となりました。</p> <p>また、町主催の体育行事は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年10月4日(日)第62回町民体育祭 中止 ・令和2年12月13日(日)第53回町民駅伝大会 7自治会 <p>今後は、令和3年度から廃止となる町民体育祭や自治会対抗行事に代わる事業として、幅広い年齢層の方がスポーツに親しむことができるよう「スポーツフェスタ(仮称)」の企画・運営を東員町スポーツ協会へ委託し、また東員町陸上競技場の指定管理者であるヴィアティン三重で実施されているスポーツイベントとの共同開催に向けて協議を行いました。</p>

事業名	決算額 職員数	点検・評価
スポーツ関係団体への育成支援 (体育振興経費)	3,978千円 0.27人	<p>東員町スポーツ協会については、体育協会・スポーツ少年団・フレンドリークラブの3団体が有機的に連携し、生涯スポーツの振興と健康増進に取り組みました。</p> <p>(1) 体育協会事業 各種競技スポーツについて、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業もありましたが、自治会対抗事業(町民駅伝大会を含む)を4大会、専門部事業を5大会、いなべ市の大会に専門部を通じて3大会参加し、交流を深めるとともに、参加者の体力向上と競技レベルの向上を図りました。 【自治会対抗事業】 ・10月18日(日)自治会対抗男子ソフトボール大会 ・11月8日(日)自治会対抗女子バレーボール大会 ・11月29日(日)自治会対抗卓球大会(男子・女子) ・12月13日(日)第53回町民駅伝大会</p> <p>(2) スポーツ少年団事業 スポーツを通じて子どもたちの健全育成を図るため、各専門部においての主催大会や招待試合の企画運営等を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となる事業もあり、例年より少ない活動となりました。</p> <p>(3) フレンドリークラブ事業 町民の誰もが気軽にスポーツに参加できるよう各種スポーツ教室を行い、町民ニーズの把握と、魅力ある企画に努めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参加者数が例年より少ない結果となりました。</p>
体育施設整備事業 (体育施設整備費)	36,511千円 0.14人	<p>老朽化が進んでいる笹尾西小学校ナイター設備の撤去を行いました。また、災害時の指定避難所である総合体育館アリーナの照明をLED化に改修を行いました。 今後は、体育施設の老朽化の進展状況により、長期保全計画の見直しを適宜行い、施設利用者が安全安心に利用できるような適切な施設の維持管理に努めます。</p>
体育施設運営事業 (学校体育施設運営事業含む) (維持管理経費) 体育館・武道館 6,956千円 陸上競技場 5,595千円 町民プール 276千円 中央球場・テニスコート 6,339千円 城山球場・テニスコート 5,294千円 長深グラウンド 1,329千円 学校体育施設 981千円 計 25,789千円	25,789千円 0.87人 (使用料収入) 5,022千円 - - 766千円 1,779千円 2千円 981千円 計 8,550千円	<p>町体育施設は一般利用者のほか、年間を通して自治会対抗行事、スポーツ少年団活動、フレンドリークラブが企画した教室等の会場として利用されていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設を一時使用中止にしたことから、前年度に比して利用は減少しました。</p> <p>町民プールについては、社会教育委員をはじめ、議会教育民生常任委員会などの各委員の意見を聴取し、検討を行い、議会全員協議会での説明等を経て、令和3年3月に条例の一部改正の可決をもって正式に廃止の決定となりました。</p> <p>学校体育施設開放についても、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設を一時使用中止にしましたが、再開後は卓球やバレーボール、バスケットボール等地域の登録団体等の活動に活用いただきました。</p> <p>陸上競技場については、令和2年度から10年間、指定管理者制度により(株)ヴィアティン三重ファミリークラブが指定管理者となり、施設の維持管理及び運営が始まりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画事業の実施ができませんでした。</p> <p>体育施設運営事業では、より多くの町民の健康増進に繋がるよう、また、利用者が安全に施設を利用することができ、楽しくスポーツに取り組めるよう施設の維持管理と運営に努めました。</p>

IV 学校（幼稚園・保育園、小学校、中学校）の評価

東員町学校（園）教育目標「確かな学力と豊かな人間性をもとに社会に参画する力（自己実現と社会の発展に貢献する力）の育成」の実現に向けて、各園・学校が様々な実践に取り組みました。

自己評価の結果を見ると、各学校・園ともに概ね目標を達成しているといえます。目標を達成した項目分野に関しては、教育委員会としての取り組み・支援についても、一定の成果をあげたものと自己評価するところです。しかし、評価が低い項目に関しましては、教育委員会全体でその要因を分析し、次年度以降の重点的な支援について検討する必要があると考えます。

※平成27年度より特に重点を置く項目を絞り込み、統一した形で、年度末に達成度を自己評価しています。小中学校においては、学校関係者評価委員より評価に対する意見等もいただいております。

※本町は、幼保一体施設により3歳以上児は合同で教育・保育を実施しており、各園は教育・保育一体の取り組みについて自己評価をしています。

①幼稚園・保育園

各園の研修では、コロナ禍で幼小連携した保育授業研究はビデオ研修となりましたが、3感や子育てのポイントを意識した実践の交流を行い、幼稚園・保育園と小学校の円滑な接続と保護者への子育て相談・支援に力を入れてきました。保育の質的向上を目指し、指導主事を招聘する園内指導主事研修を行い、保育者の保育力及び教育力の向上にも努めました。

危機管理面では、命を守る取組として、コロナ禍であっても可能な範囲内で避難訓練を行いました。また、新型コロナウイルス感染症予防から、手洗い・うがい・消毒等の衛生面での意識を高め、園児の健康に十分配慮した保育を徹底しました。

保護者の思いに寄り添い、子育ての悩みなどの相談に丁寧に応じ支えることで、保護者との信頼関係づくりに努めました。

コロナ禍において様々な活動が制限される中、感染症対策を徹底しながら保育を継続することで、概ね全ての内容において、肯定的な自己評価に繋げることができました。

②小学校・中学校

確かな学力の定着では、全ての小中学校において総合学力調査（IRT）を実施し、「D層（低学力層）10%未満」を目標に、結果の分析と授業改善等を行いました。また、算数や数学での習熟度別少人数授業にも取り組み、結果として、前年度と同様に概ね各校が目標を達成しました。小学校では、学校図書館運営専門員の授業支援や図書館運営での有効活用を図り、成果として年間平均貸出冊数の増加、図書館利用の活性化に繋がりました。

豊かな人間性では、教科化された「特別の教科道徳」、人権教育カリキュラムに沿った人権教育等を通して、自他を大切にする心、思いやりの心を育みました。また、コロナ禍において感染者や医療従事者等への差別や偏見を生まないように、正しい知識と判断力・行動力を育む人権教育にも力を入れました。

健やかな体については、コロナ禍で例年通りの環境で体育教育を行うことが困難な中、感染症対策を十分に行いながら、可能な範囲で健康維持と体力向上に努めました。

信頼される学校については、児童生徒だけでなく、保護者や地域の方の願いや考えを把握しながら学校運営を行いました。学校評価アンケートや評議員会でいただく評価は成果と捉え、また改善が必要とされる内容のご意見も真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしていきます。この信頼関係をもとに、学校が地域のコミュニティの拠点となるよう、保護者や地域と共に歩んでいきます。

③新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業と学習保障

幼稚園・小中学校では4/15～5/31の期間において、新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業（臨時休校）を行いました。その間、小中学校では家庭学習で学習保障を補いながら、各家庭と連絡を取り合いながら健康観察等に努めました。また、国内や県内の感染状況を注視しながら、園児や児童生徒の感染症対策を徹底するとともに、園校での学習環境の整備を随時すすめながら、コロナ禍でも子どもたちの活動や学習を止めないように取り組みました。

V 評価委員会の意見

評価委員会において、委員から次のようなご意見をいただきました。今後の教育委員会の運営及び点検・評価の参考にさせていただきます。

教育総務課に係る主要事業について

- (1) P 6
教職員健康管理事務において、産業医の過重労働対象者に対する面接指導の人数が前年度より減少していることは、教職員の意識改革や環境改善等の取り組みによる効果であり、さらなる「働き方改革」を推進すること。
- (2) P 6
保育園等劣化度診断調査業務において、保育園・幼稚園及び小中学校の水回り等頻繁に利用する設備を計画的に改修し、維持管理に努めること。また、みえ森と緑の県民税市町交付金等を活用し、施設の木質化を検討すること。

学校教育課に係る主要事業について

- (3) P 8、P 12
ALT派遣事業及び16年一貫教育プラン実践事業において、小中学校での外国語指導助手による英語教育や「東員英語検定テキスト」の実践といった取り組みを学力向上のために継続すること。
- (4) P 9～P 11
学力向上推進事業（学力調査活用事業）において、全体的に達成率が概ね全国平均を上回っており、課題とされてきた中学3年生の社会、理科は改善が見られたものの、中学2年生の社会、理科は前年（中学1年生時）を下回っており、さらなる取り組みに努めること。
- (5) P 12～P 14
特色ある学校づくり事業において、各校ともに専門講師を招聘し、授業づくりのために研究する具体的な取り組みが見られた。
- (6) P 14～P 15
東員町いじめ問題対策事業において、小中学校での児童、生徒及び保護者に対する困りごと、いじめ等に関するアンケートや相談業務を継続し、いじめ防止等に努めること。
- (7) P 15
総勤務時間の縮減に係る取組において、設定された目標に対する実績を記載すること。

社会教育課に係る主要事業について

- (8) 全般
社会教育事業全般において、毎年事業を開催することで運営のノウハウが継承されてきたが、コロナ過により中止となっても、残した記録を編集する等の再開に向けた準備をしておくこと。
- (9) P 17
文化事業（文化事業イベント経費）において、こども歌舞伎公演及び東員「日本の第九」演奏会はコロナ過であることから中止となったが、感染症拡大防止対策を行ったうえで、SNSを活用した開催方法を検討すること。
- (10) P 17
公民館諸事業（公民館諸事業経費）において、講師等に対して「オンライン活用講座」を実施しており、講座や講演会等を開催する場合はオンラインの導入を検討すること。

幼稚園・保育園、小学校、中学校の自己評価について

- (11) 自己評価書の評価基準が曖昧であり改善すること。また、一部の小中学校において学習している「東員町子ども権利条例」について、全小中学校での学習を検討すること。さらに、体力の向上として取り組んでいる「東員なわとび検定」について、「東員町チャンピオン」の決定を検討すること。

自己評価書

(幼稚園・保育園、小学校、中学校)

目 次

	ページ
【幼稚園・保育園】	
1 三和幼稚園・みなみ保育園	1
2 稲部幼稚園・いなべ保育園	2
3 神田幼稚園・東員保育園	3
4 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園	4
5 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園	5
6 城山幼稚園・しろやま保育園	6
【小学校】	
7 三和小学校	7
8 稲部小学校	8
9 神田小学校	9
10 笹尾西小学校	10
11 笹尾東小学校	11
12 城山小学校	12
【中学校】	
13 東員第一中学校	13
14 東員第二中学校	14

令和2年度 三和幼稚園・みなみ保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や園内研修で月に1回以上子どもの姿を振り返り、その都度日課や生活、保育環境や玩具を整えた事が発達に繋がりました。 ・子どもの困り感を理解し、どの子にもわかりやすい環境を心掛けました。心の動きや成長を見逃さず、共に喜び認めることで達成感からやる気に繋げ個々の自信が高まりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の保育目標を持ち、日々成長する子どもを理解し発達を促すことができるよう、常に子どもの様子を掴んで対応していきます。 ・保護者と共に発達を促せるよう、保育目標と子育ての20のポイントを保護者へ知らせ実践に繋がります。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、家庭での過ごし方を推奨する一つとして、職員が絵本を学び合いました。保護者に推奨絵本の紹介を継続的に行う事で、親子の読み聞かせが増えました。 ・自然への興味を促進するため、自然を使った制作等を計画的に取り組みました。興味・関心を高め、想像力・発想力の向上に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動や行事に個性を発揮できるよう環境を見直し、心豊かな園生活が送られる保育計画を立て、成長を促していきます。 ・保育目標や個々の目標を保護者にも伝え、保護者が安心して預けられる園と感じてもらえるような体制を整えていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の生活・成長の大切さを中心に見直し、研修を積み上げました。保育者の動きや適切な役割を基礎から学び整える事で全クラスの改善に繋がり、園児の生活や遊びの内容が高まりました。 ・年齢や発達にあった玩具や遊びを、年齢部会で討議することで年齢に適した「遊びからの学び」の実践ができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児保育の多様化や人数増加に対応し、乳幼児が快適に過ごせるよう担当制の重要性と環境・保育の資質向上を継続して学び、尚且つ新しい発想を取り入れた実践に繋がります。 ・自己研修・リモート研修等自ら率先して学び、保育内容を高めます。また、学びを活かした実践を行い更なる向上を目指します。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で毎年行っている地域と連携した避難訓練が行えなかった代わりに、園内で危険箇所を見直したり避難経路を確認したりし、月1回様々な状況を想定した訓練で意識付けができました。 ・感染症の意識が高まり、マスクの着用・手洗い・うがい、消毒が身に付きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児が増える中、急な災害に対し避難が円滑に行えるよう、人員配置や経路を見直していきます。 ・運動遊びでは活動を見通し、怪我の防止に努めます。また迅速な行動がとれるよう普段の生活から意識を高め、身体づくりを継続して取り組んでいきます。 ・感染症に対し職員の意識を高め、現在の対策を日常化し感染症を防ぎます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に上がるまでにつけたい力と3感を認識した研修や実践に取り組み、年長児では自分の思いを言葉で伝える力が付き、「伝えたい」と自己発揮できる子が増えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「子育ての20のポイント」を意識して子育てをしているかの設問に対し、「あまり思わない」と15%の保護者が感じています。子育て20のポイントを保護者にわかりやすく子どもの姿に例え、便り等を通じて浸透していくよう続けていきます。 ・連携を強め、接続カリキュラムを活用し、幼保・小の接続では教育課程を深く理解し合えるようにします。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛や行事の中止に伴い保護者と接する機会が減る中、その分コミュニケーションや日々の連絡帳を活用し信頼関係の構築に努めました。結果アンケートでは「要望や相談に誠意をもって応じている」の設問に、99%の保護者が「そう思う」「やや思う」と感じる保育に繋がりました。 ・園児や一時保育の保護者からも相談を受けることが多くなり、子育て支援に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間児や低年齢児、一時保育利用者も増加傾向にあり、相談内容も多様化しています。保護者の思いを受け止め、必要に応じ様々な関係機関とも連携を図り、適切な方法で解決に近づけるよう努めます。相談しやすい園を目指し、専門的な知識も身に付け誠意を持って対応していくようにします。

令和2年度 稲部幼稚園・いなべ保育園 自己評価書

評価基準(④目標を上回って達成した ③目標通りに達成した ②目標を少し下回った ①目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で子どもの発達や課題を共有し、手立てや支援策を話し合い一人一人を大切に保育に努めました。 ・全職員で情報を共有し、子どもたちの発達の援助に繋げることができました。 ・環境や玩具の見直し、一人一人に応じた言葉かけなど丁寧に行ってきた事で、子どもたちの3感の高まりに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月案討議等限られた時間の中で各職員が課題意識を持って臨み、有意義な研修に取り組んでいきます。 ・特別支援のノウハウを全職員で学び、より専門的な知識、保育の方法を深めていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に子どもたちの姿や環境設定、玩具についてなど職員間で交流し、共通認識のもと主体的に遊び、生活する子どもを意識し保育をすることができました。 ・進級する際に、具体的な関わりかたなどを引継ぎ、子ども達の不安な気持ちを和らげ、滑らかな移行に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの保育観の違いはあるが、良いところを認め合いながら保育者自身の3感を高めていきます。 ・保育の振り返りを常日頃から心掛け、試行錯誤しながら日々の保育を大切にしていきます。 ・報連相を意識し、よりよい保育に繋がっていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事研修、CLM研修、巡回相談、町幼保年齢別部会などでの学びを職員で共有し、自分のクラスの保育に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修での学びをクラスに取り入れ実践し、その経過や結果を継続的に発信していく事で、より子どもも掴みや学びに繋がりに園内の保育の質の向上に繋がるよう研修を深めていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・熱性痙攣、てんかん発作を想定しての訓練を園独自で行ったことで、いざという時の自分の動きや他職員との連携などイメージでき危機管理が高まりました。また、普段の子ども達の様子に留意し、子どもの小さな異変にも気付く意識を身に付けました。 ・毎月の避難訓練ではその都度改善点など話し合い、実際に起きた時に各自が対応できるよう努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる想定で訓練を行い、準備や対応を万全にできるよう今年度の反省と課題を明確にし、引き続き園内での取り組みを進めていきます。 ・コロナ禍において、園内でできる事(マスク、手洗い、消毒など)をしっかりと取り組み、保護者の協力も得ながら感染予防に努めていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・小中との交流機会はなかったが、16年一貫教育プランの土台の部分を意識し、乳幼児期を大切に丁寧に関わり、小中学校へ繋げていけるよう努めました。 ・町教研ではビデオ実践という形であったが、幼保小中での授業等から自分なりに考察し、多くを学ぶことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍で交流が難しく、例年のように深めることができませんでしたが、この状況下でできること(ビデオ実践など)で学びを深めていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に保護者とのコミュニケーションを心掛け、信頼関係の構築に努めてきたことで、園への相談も増え、保護者と園とで子どもの成長を共に喜び、同じ方向を向いて子育てができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の悩みや相談に具体的なアドバイスを伝えることができるよう、更なる専門知識の学びを進めていきます。 ・直接会う機会が少ない保護者などに対して、こちらの思いばかりにならず、保護者が頑張っている姿などを大いに認め、家庭と園と共に子育てを進めていきます。

令和2年度 神田幼稚園・東員保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の要求を受け止めながら基本的信頼感を育み、育ちに合わせて環境を整えることで、発達を促すことができました。 子ども達を取り巻く環境が多様化する中で育ちを理解しながら、子ども達が自己を発揮し達成感や充実感が味わえるように、週案討議や月案討議の中でしっかりとねらいを持って保育することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達を支えるために、より専門的な知識を身につけていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員間や保育支援員とも連携を意識して、個別の療育に取り組み一人一人の成長に合わせた細やかな教育・保育を行うことができました。 子ども達の発達課題を共有し豊かな教材や環境を整えることで、子ども達が主体的・意欲的に生活や遊びに関わる姿が増えました。子ども達の成長を職員同士喜び合うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性を発揮した豊かな環境づくりができるように保育者一人一人が意識を持ちながら、教材研究を行い、保育のスキルアップを目指します。 情報の共有という点では、大所帯の園であるので、教育目標を達成するために必要な情報は、すべての職員(パート職員を含む)にまで行き渡るようにしていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染防止のため、研修自体は減ってしまいましたが、指導主事研修、町教研、CLM巡回研修、巡回相談、園内研修、町幼保研などで子ども掴み、保育方法、見えていなかったクラスの様子などを教えていただくことができました。 CLM7つのポイントを保育の中でも意識し、特に5歳児は、研修で立てたプランを全クラスでも実践するなど、子どもの学びを支える力に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で教えてもらい学ぶことができたが、そのことを実際の保育で実践していくことが難しかったので、学んだことを実践し力をつけていきます。一人一人が自己研鑽し、学んだことを継続的に取り組んでいきます。 CLM巡回研修では、今年度は5歳児での取り組みに終わったが、5歳児で立てたプランを他学年にもおろして、その学年に合うプランで取り組んでいきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面や時間帯を想定し、避難訓練を行えたこと、避難経路の選択や誘導方法などをその状況に合わせて考え、確認できたことで職員の意識を高めることができました。 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針や学校教育課の対応等を職員間で情報共有に努め適切な対応をすることで保護者の安心感にも繋がっていききました。 	<ul style="list-style-type: none"> 低年齢の子どももほど予想外の行動をとることがあるので、これまでの訓練に慣れてしまわないよう意識を高く持って危機管理に取り組んでいきます。 3歳未満児の人数が増えた分、避難に時間がかかってしまうので、より短い時間で避難できるように、訓練を積み重ねていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 町教研の提案研修では、読み解く力・伝える力の育成を柱とし幼保小中での実際の子ども姿を交流し、課題について話し合いを深めることができました。課題が明確になり連携を深めることができました。 子育ての手引き版をもとに、園だよりで伝えたり、20の姿を実際の子どもの姿を例にクラス便りで発信したりすることで、保護者にも意識してもらえるように取り組むことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> リーディングスキルについての具体的手立てが、園での保育の中では弱いように感じるので、日々の保育の中で模索しながら園児なりの読み解く力・伝える力を身につけ、小中学校へつなげていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や登降園の受け入れ時に子どもの姿を肯定的に伝えることで、保護者との信頼関係を深めることができました。また、保護者の思いに寄り添い、悩みなどの相談に丁寧に応じ子育て支援をおこないました。 16年一貫教育プランを使用して、子育ての悩みについて、一緒に考えていくことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育ての相談をしたくても、自分から発信できない保護者の方もいるので、さらに相談しやすい環境を整えていきます。 保護者の悩みも多様化してきているので、園内研修のテーマにするなど研修を積みながら、職員一人一人が、どんな悩みにも対応できるだけのスキルを身につけていけるよう努めます。

令和2年度 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の表情、行動などを細かにとらえ分析を行い、個々に合った援助方法を考え、実践することができました。 月案討議やCLM研修・巡回相談・指導主事研修などで学んだことを実践につなげ、子どもたちの指導、援助に活かすことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 園全体で、子ども一人一人の姿と共に支援、指導方法を共有し、途切れのない保育に努めていきます。 主体性のある保育を充実させるために、職員同士が気づきを伝え合い、共有できるように努めていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 休園措置などがあったが、子ども囲みを懸命に行いました。そのため、発達の保証ができるようカリキュラムを立てて保育・教育を進めることができました。 子どもの姿を交流しながら、日々の保育が実践できるように、職員同士で相談を行い実践につなげることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間でお互いを認め合い、報告・連絡・相談を行い連携をさらに深めていきます。 教材準備や話し合いがさらに深まるように、職員同士が協力、工夫しながら保育に努めていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は外部への研修が随分中止となり、学びが例年に比べると少なくなりました。実施できた指導主事研修・CLM研修・町教研公開保育及び授業・町幼保年齢別部会などに参加し学び、保育に活かすことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの意識を深めたり、自主研修などに参加し、学んだことを園内に広め、保育の質を高めていきます。 園内研修や月案討議を深めるために、研修時間の持ち方の工夫をしていきます。 リモートなどで様々な研修に参加できるように環境整備をすることが課題です。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面での意識が高まり、感染症予防などに取り組むことができました。行事なども中止になりましたが、何を大切に考えるかというあたりで危機管理の意識を高めることができました。 毎月避難訓練を行い、避難方法や子どもたちの誘導の仕方など、職員同士で話し合い意識を高めることができました。 職員間の連携を図り、アレルギー事故0を今年も更新することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症だけでなく、日々の保育の中で起こりうる危機管理の意識を個々で高め、園全体の危機管理意識を高められるように努めていきます。 園関係者でコロナが発生した後のメンタルをどう支えていくかが課題と考えられます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は小学校との交流行事は1年生との焼き芋だけになりましたが、職員同士はCLM研修や園だよりなどで情報交流ができました。 基本的信頼感を大切にしながら、個々の発達、成長、意欲に合わせて、身の回りのことを自ら行えるように見通しを持って保育することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 園・校の意識の持ち方など16年一貫教育プランを柱にして、独自の取り組みを定着させていきます。 16年一貫教育プラン、子育ての20のポイントをさらに意識し、保育の工夫などを考え、見通しを持った保育を継続していきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の子育ての悩み、相談に耳を傾け、気持ちに寄り添いながら一緒に考えられるようにしました。特に、地域との関わりの薄い保護者には気を配るようにしました。 送迎時や連絡帳を通して、家庭の様子を聞いたり、園での様子を伝えたりしながら、関係を深めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談がある場合は話しかけやすいが、内に込めている方の悩みがつかみにくいです。行事などが中止となって機会も減少するので、きっかけを作る方法を考えていきます。また、外国籍の方には特に細やかな配慮を行えるように努めていきます。

令和2年度 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いに寄り添う保育を大切にし、子どもたちと信頼関係を築いてきました。安心して過ごすことができる環境の中で、子どもたちの意欲や発達を促すことができました。 職員間で連携を図り、発信や相談をし合うことで、職員みんなの目で子どもの発達段階を深く読み取ることができ、子ども一人一人の発達を支えることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの自発的な行動や興味関心を抱いている姿等から発達段階を掴み、必要な手立てや環境を整えていきます。 日々の保育を振り返り、自己研鑽に努めていきます。また、個人の学びを職員間で共有し、子ども理解を深め保育に活かしていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 入園から今までの成長や様子等を伝え合うことができている為、子ども掴みがし易く、継続した手立てや取り組みを行うことができました。また、絵が上手等、職員一人一人の得意なことを活かした保育を行うことができました。 長時間保育士とも連携を深め、全職員で子どもたちの成長に大切なことを一緒に考え、取り組むことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいや目当てを明確にすると共に、職員の個性を活かした取り組み、行事、活動を今後も計画していきます。 職員同士声を掛け合い、保育者一人一人の良さを認め合えるような関係を今後も引き続き構築していきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修で取り入れたインシデントプロセス法の研修によって、一人一人の考えを発信し易くたくさんの学びがありました。 CLM研修では、小中学校、教委、支援室と共に考えを出し合い、成長を支えるプランを作ることができました。そこで学んだことを各担当が保育の場で実践していくことで、子どもたちの成長が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修方法や園内での保育観察等、保育者の学びに繋がるような研修計画を立てていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー等の対応を朝の職員会議で確認し合い、事故を防ぐことができました。また、ヒヤリハット事例を全職員で共有し保育を振り返ることで、職員の危機管理の意識がより高まりました。 コロナ禍に対しての対応や駐車場問題等について、職員、PTA役員と共に試行錯誤しながら取り組みや対策をとることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者としてしっかりコミュニケーションを図り、早朝保育から長時間保育の時間まで、子どもたち、保護者の方が安心して園生活が送れるように努めていきます。 社会情勢にもアンテナを張り、コロナ感染拡大の予防に努めていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 町教研の提案で、幼児期に大切にしている取り組みを子どもたちの姿を通して伝えることができました。 小学校と連携を図りながら対策を徹底し、小5と年長児の交流を行うことができました。また隣接する小学校の日々の活動や子ども同士の交流から、年長児は小学校生活に対する期待感や安心感が生まれました。 	<ul style="list-style-type: none"> 16年一貫教育に基づいた現在の接続カリキュラムを土台に、小中学校と連携を図り、子どもの学びを深めていきます。 小学校と隣接していることを活かし、もう一步踏み込んだ子ども同士の自然な関わりができるように働きかけます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の悩みや困り感にも寄り添う等、保護者との関わりを大切にしてきました。先生を求め、喜んで登園する子どもの姿から保護者も安心され、保育者との信頼関係が深まりました。子どもの成長と一緒に考えたり喜び合えたりできる関係になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間保育を利用している保護者や送迎にいらつやらない保護者とも、連絡ノートを利用する等し、保育者からコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めていきます。 保護者の気持ちにこれまで以上に寄り添い、発達や生活習慣を一緒に積み上げていきます。

令和2年度 城山幼稚園・しろやま保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のクラスの子どもの姿をしっかりと掴み、支援方法を園内で話し合って環境を整えました。 ・巡回相談やCLM研修を通して子どもの困り感やそれに対する支援方法について考えたり、子どもの姿や自分の保育について記録をとりながら日々振り返ったりし、保育の質の向上に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階の理解を深め、今後も自己肯定感、自己有能感を育てていけるように援助をしていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で子どもの成長過程や気になる姿を共有し、悩みに対して相談同士で一緒に考えてきました。 ・子どもたちが心地よく生活を送れるように、常に試行錯誤し、発達に応じた環境設定を工夫することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢の差や一人一人に合わせ、主体的に遊べる人的・物的な環境作りをさらに強化していきます。 ・他の学年の子どもの発達にも目を向け、園全体の子どもの発達を理解していけるようにより意識を高めていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、町幼保年齢別部会等を通して、主体的な遊びを支える環境づくりの大切さについて学び、子どもの姿と照らし合わせながら保育に活かすことができました。 ・季節のうたや、発達に応じたふれあい遊びを職員間で学び合い、保育の中で実践できました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を見合い、学ぶ機会を引き続き大切にしていき、多方向の観点から子どもの発達を促せるような保育に繋げていきます。 ・研修で学んだことをすぐに自分の保育に返して活かしていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、子どもたちと一緒に様々な場面や状況を想像しながら取り組むようにしてきたことで、少しずつ自分で考えて行動する意識を持てるようになりました。 ・ヒヤリハットの事例を記録して振り返りを行い、同じことや大きな事故が起こらぬよう、対策をすぐに考えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の動き方や子どもの避難方法は話し合っていますが、不審者の対応は予測不能なので、あらゆる場面を想定して今後も訓練を行なっていきます。 ・代替え保育士や長時間保育に関わるパート職員にも、常に情報を共有していきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの活動を満足するまで遊んだり、やり切るまで遊び込んだりできる環境づくりを整えてきました。 ・町教研の日には、小中学校の先生にビデオで子どもの姿を見てもらい、園で大切にしていることや、子どもの遊びがどのような学びに繋がっているかということを伝えることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プランに基づき、途切れのない援助を今後も心掛けていきます。 ・子どもの遊びがどのような学びに繋がっているかということを、日々意識しながら保育を行なっています。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園の際に保護者の方と積極的に話をするように心掛け、子どもの成長した姿を保護者と共有し、信頼関係を深めることができました。 ・困り感のある園児には、園側から保護者の方と話し合う機会を持ち、一緒に子どもとの関わり方を考えることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に具体的かつ分かりやすい内容で、子どもの発達段階や、発達を促すために必要な遊び等を伝えていきます。 ・保護者から子育ての悩みを発信してもらえる信頼関係の構築に励み、毎日のコミュニケーションを大切にしていきます。

令和2年度 三和小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：人として、心豊かに生きる子 ～優しく 賢く 逞しく～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	3	・朝学習で国語と算数のテキストを活用したスパイラル練習に取り組み、漢字の学年末テストの全校定着率は95.8%となった。 ・全学年の算数で少人数授業(1,2年はIT指導)を実施し、IRT学力調査の結果では、全校平均で5.1P全国より高く、効果をあげた。 ・東員学び検定に取り組み、全校平均97点で受験者全員が合格した。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・各種学力調査の結果分析を行い、D層支援と授業改善に生かした。 ・全学級提案授業を行い、教師力と授業力を磨き合った。 ・大学教授は招聘できなかったが、算数指導方法を学び合い実践した。 ・「ノート指導」「読解力向上」を心がけた授業づくりを行い、自学自習できる子どもの育成に努めてきた。今後も続けていく。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・「家庭学習のすすめ」を作成・配付すると共に、チェックシートを毎日活用し、家庭との連携を図り、家庭学習の定着化を進めた。 ・宿題を丁寧に点検し、学習時間の意識化と直しの徹底を進めた。 ・家庭学習の時間(1年20分、2年以上10分×学年)を意識して取り組んだ児童は98%であった。引き続き、家庭学習の習慣化と丁寧さを求める。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	3	・朝の10分間読書を毎日確保した。年間を通して「朗読ひばりの会」による読み聞かせを行い、児童が本に触れる機会を増やした。 ・図書館専門員を活用し、ブックトーク、ブックバイキング、ライブラリークエスト等、本への興味関心が高まる読書活動を実施した。 ・週末読書、家庭読書、読書登山の目標読破に取り組んだ。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・道徳教科書教材を中心に、全学年が年間計画に沿って授業実践し、児童の道徳的心情を養った。 ・人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 ・道徳科の授業実践を通して、年間指導計画の見直しを図った。 ・今後も「考え議論する道徳」のあり方を学習し実践につなげたい。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権週間では人権の授業を実施し、その取り組みを校内掲示した。 ・年4回はいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 ・「東員町子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 ・児童理解と支援のあり方を追求し、特別支援教育の充実を図った。 ・巡回相談やスクールカウンセラー等の関係機関との連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・各学級のSST実施で、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。また、適宜「人の関わり方」を指導した。 ・児童会中心にあいさつ運動を実施し、あいさつの推進に取り組んだ結果、「進んであいさつする」児童は94%となった。 ・年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・児童会を中心に、「学び名人・挨拶名人・掃除名人・友達を大切に・ルールを守ろう」の目標を作り、レベルや標語の作成、点検活動に取り組む等、自治的活動を保障し進めた。その中で、企画運営力を培った。 ・運動会縦割り種目、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組む、高学年のリーダー性を養った。
体： 健やかな 体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体育の授業では、体力テストの課題である上体起こし・ボール投げの克服に向け、サーキットトレーニングやボール遊びを多く取り入れた。 ・運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 ・東員縄跳び検定に向け、縦割り班練習や体育集中期間で取り組んだ。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・食後の歯みがき指導を重点に「歯みがきカレンダー・ピカピカウィーク」等に取り組んだ結果、94.1%の児童が意識していると答えた。 ・年間3回のアウトメディア週間取組や、「睡眠」の授業の実施等により、メディア視聴時間と睡眠の大切さを啓発した。 ・給食指導、食育の指導を実施し、食の意識が高まった。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・三世代交流餅つき大会は中止としたが、地域の方々から教えて頂く活動は可能な限り保障し、地域の文化や人々と触れ合うことができた。 ・保護者と児童アンケートを実施し、その結果を分析し生かした。 ・年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAに生かした。 ・学校評議員会を開催し、様々な視点からの意見を頂くことができた。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・学校安全ボランティアによる下校見守り活動を実施した。 ・PTA交通当番活動の実施により、無事故で安全な登校ができた。 ・避難訓練2回、防犯教室1回を実施した。 ・学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡や説明も適切に行った。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員意見より

- ・コロナ禍の中、子どもたちのために、先生方が見えない所で苦勞してもらっていることが大変有り難い。
- ・大変な状況の中、例年通りに活動する事は難しい。その都度変更等して進めて来てもらった事が分かった。
- ・子どもにとって友達作りは大事なことで、人間関係や仲間との関わり方を引き続き大事に指導して頂きたい。
- ・子どもたちは地域の中で大きな声でよく挨拶してくれる。これからも是非続けてほしい。
- ・「豊かな心」の育成はとても大事であり、挨拶では「相手の目を見て」できる子に家庭でも意識したい。

令和2年度 稲部小学校 学校自己評価書

学校経営理念：稲部の3I=Insight(内面の成長) Intention(意思ある子ども) Integrity(素直さ)

学校教育目標：やさしく たくましく 知性豊かな子の育成

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状(到達状況・改善方策等)
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間の学習 ・東員学び検定 等	4	授業、宿題、「ぐんぐんタイム」「のびのび学習会」などでくり返し基礎基本の反復練習に取り組むことができ、年度末の漢字・計算テストでは全校平均90点以上を取ることができた。「とういん学び検定」では、ぐんぐんタイムなどを利用して学習に取り組む、全員合格することができた。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析 ・研修会・公開授業	4	教科の本質を考えて、学び合いの深まる学習課題づくりに取り組むことができた。友だちの話を丁寧に聴き、友だちの「分からないこと」をみんなで考え合うことができるようになってきた。学校全体で、分からないことを自分から聞ける安心感のある仲間づくりができています。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導	3	学期はじめに「家庭学習のすすめ」を配布し、どの学年も意識して取り組むことができた。宿題は、99%の児童が毎日継続して行い提出ができた。学習の時間の定着は、94.1%の児童がほぼできていると感じているが、保護者は80.2%にとどまっている。今後、学習内容の質を上げ、定着を図っていく。
	読書の意欲向上	・朝読書の習慣 ・読書登山の取組 ・読書活動の取組 等	3	毎学期行った図書イベントでは、達成率が90%を超え、子どもたちの読書をする意欲づけになった。低学年では、「朗読ひばりの会」の読み聞かせを2学期から再開し、本に興味を持つ子が増え、読書登山を達成した子が増えてきた。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・「教科道徳」の充実 ・各教科、領域との関連 ・重点項目の取組	3	年3回の研修会で子どもの姿を交流し、必要な手立てについて考え、実践した。カリキュラムを立て、計画的に道徳の授業を実施した。人権月間では、学級の実態に応じた授業を行うことができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画やカリキュラムの策定 ・「いじめ防止基本方針」の充実 ・特別支援教育の充実 等	3	定期的に「きりりカード」の交換を行い、友達よさに目を向ける取り組みを行うことができた。縦割りで討論会を持ち、安心・安全で気持ちのいい学校をつくるために、自分たちができることを出し合った。討論会を受けて「廊下を歩く」というまわりについて、一人一人が考え、落ち着いて行動しようとする姿が増えた。
	コミュニケーション力の向上	・QU調査・分析の実施 ・挨拶の取り組みと定着 ・約束やルールの徹底	3	学校アンケートで、進んであいさつをしていると答えた子の割合が80%だった。あいさつをされたら、あいさつを返すが、自分から進んでというところに課題が残る。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、委員会活動 ・縦割り班活動 等 ・クラブ活動	3	各委員会子どもが主体的となりアイデアを出した活動が増えてきた。ミニ通学班集会をもつことで、子どもが細かな困り感を出すことができた。今後もこの機会を大切にしていく。
体： 健やか な体	体力の向上	・体力テストの実施 ・東員縄跳び検定の実施 ・あさがおタイムの取組	3	体育環境委員会が中心となり、行い方を工夫しながら少人数で全校遊びを行った。運動能力の向上や運動に対する思考判断能力を育むために、話し合いをする活動を取り入れたり、工夫する場面を作ったりするなど体育授業の改善に取り組んだ。
	保健教育の推進	・健康教育の推進 ・保健指導の実施 ・保健たよりの発行	3	生活点検の期間を設け、チェックシートを用いて取り組むことで、生活習慣を振り返ることができた。保健委員会の活動の中で、外遊び後の手洗いの呼びかけや、外に出る機会をつくる取り組みを行うことができた。
信： 信頼さ れる学 校	開かれた学校	・マニフェストの公開、自己評価の実施 ・評価委員会の開催 ・地域との連携	3	保護者・地域とともに子どもを育てていくため、学校たよりを適宜発行し支援を得てきた。「学校の様子がよくわかる」のA回答が62%A+B肯定的意見が97%であった。年間2回の学校関係者評価委員会を開催し、学校教育活動の助言をいただいた。
	安全・安心な学校	・安全教育、教室の開催 ・訓練の実施 ・けが、病気への丁寧な対応	4	今年度も多くのボランティアの方にご協力いただき、安全確保ができた。怪我や病気は発生した場合は、保護者と連絡を取り合いながら適切な対応を行い、受診しなければいけないと判断した場合は病院に移送した。「健康や安全面の取り組みをおこなっている」のアンケート結果回答Aは72%であった。

学校関係者評価委員 意見より	子どもたちは、ふらふらしたり立ち歩いたりせず、集中して学習に取り組むことができています。わからないことを「わからない」と言える子をこれからも大切に、学力向上に向けて取り組みを進めてほしい。学校は一生懸命子どもと向き合い取り組んでみえるし、頑張っていることがよくわかる。昨今の情報化社会が進む中、子どもたちがスマホを使用することにより、事故や事件に巻き込まれないかが心配である。
-------------------	--

令和2年度 神田小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知・徳・体の基礎を育み、学びに挑戦する子どもをめざして

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等の結果、ほぼ全ての学年の教科が全国平均を上回った。 ・全職員で分析した「強み・弱み」にもとづいて、学力を高めるために、多くの問題に取り組ませた。 ・問題の解き直しに取り組ませ、苦手な単元も集中して学習させた。 ・得られた成果を全職員で共有し、授業改善を進めた。
	算数少人数指導による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学び重視型算数少人数指導の実施 ・補充学習の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により、学習意欲と学力が向上した。 ・じっくりコースとぐんぐんコースの成果率90%を多くの単元で達成し、全体の学力を向上させた。 ・低学力層への補充学習を進めると共に、自主的に取り組めるよう工夫した。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会が図書館イベントを実施したり、貸出目標や読書登山の学年目標を設定して、読書意欲を高めた。 ・学校図書館支援事業の「読み聞かせ・ブックトーク」等を活用し、各学年とも授業で図書室を活用した。 ・一人あたりの貸出冊数が、46.9冊と多読の取組が維持できた。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の作成 ・特別支援教育の研修 ・他機関等との連携ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、個別の指導計画を作成し、保護者との共通理解を図った。 ・特支学級の授業を公開し、特別支援教育について「自立活動」の研修を深めると共に、各学級で活用できる指導法を学んだ。 ・巡回相談の指導助言の活用や聾学校との交流も進めた。 ・校内特別支援委員会で研修を深めた。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画にもとづいて35時間以上を確実に実施した。 ・児童会が作成した「神田小ネットルール」を活用した。また、ネットの使い方についてアンケートを行い、ネットルールの見直しをすることができた。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画策定 ・ソーシャルスキルの育成 ・Q U 調査の活用ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画とカリキュラムを作成し、全教育活動を通して推進した。 ・新型コロナウイルス感染における差別や偏見を取り上げ、「安全宣言」を作成し、全校児童で共有することができた。 ・毎金曜日に定例化して、各学級でS S Tに取り組んだ。 ・Q U 調査の分析をもとに、個への対応と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自主的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会行事・運動会全校種目・児童会活動等の企画運営を通して、児童のリーダー性を育てた。 ・児童会のあいさつ隊が、各教室を定期的に回るなど、「あいさつ運動」に取り組む、あいさつの声を増やすことができた。
	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校の早期対応 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや保護者との連携、児童の見守りによって、いじめの早期発見に務め、初期に対応して解決を図った。 ・縦割り行事や運動会全校種目において、異年齢集団の取組を通して「勤勉性」を高めた。
体： 健やかな 体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定ほか 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力テスト」は、50m走しか実施することができなかった。また、水泳や持久走など、コロナ感染拡大防止のために実施できなかった。 ・「東員なわとび検定」は、全校統一して体育の授業や冬休みの課題に位置づけて、意欲的に体力向上に取り組んだ。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大防止のために、歯磨きは年度途中から実施しなかったが、1年生に歯磨き指導を行った。手洗い・換気など、児童会委員会でも積極的に呼びかけた。 ・年2回の発育測定を機会に、「健康」について指導し、自分の身体について関心を高めた。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のようすを見られた学校評議員に、学校関係者として、教育活動全般や学校自己評価書について、意見をいただいた。 ・学校関係者（学校評議員）の意見を改善活動に生かし、教育活動を一層充実させている。 ・児童と保護者にアンケートを実施し、学校経営の改善に生かした。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・けがや病気には、迅速かつ丁寧な対応を心がけた。 ・「防犯教室」を実施して、児童への安全指導の充実を図った。 ・安全ボランティア（約160名）の協力を得て、学校・地域・保護者の3者が連携し、児童の安全をはかった。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年児童の自転車の乗り方交通安全指導（事故防止、危険予測能力の向上など）をどこかでやっていただくと良いのではないかと。 ・想定外の災害があるので、避難訓練の形を変えるなど、考えても良いのではないかと。また、小さい内に災害への対応を身に付けることは大事ではないかと。 ・不登校傾向の児童にとって、少しでも魅力ある学校になってほしいと願っている。 ・気持ちよくあいさつをしてくれる子供がとても多い。引き続き頑張ってもらいたい。
-------------------	--

令和2年度 笹尾西小学校 学校自己評価書

学校経営理念：学力向上と非認知能力（G R I Tを含む）の育成を図り、信頼される学校づくりを行う。

学校教育目標：自ら考え 行動する子

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・朝学習の充実 ・単元毎にテストを実施し、定着度をはかる。目標値に達成できる児童を90%以上にするように指導する。	3	・全学年が読解の問題や計算問題に取り組み、解き方や考え方の指導を行い、思考力や計算力の向上を目指した。 ・80点以上の児童は、国語85%・算数91%となり、目標まであと一歩だった。なお、合格点に達していない児童については、宿題や朝学習・補充学習で何度も繰り返して学習し、定着をはかった。
	授業改善・指導力向上	・「学びの共同体」の研修を実施する。 ・少人数教育を効果的に行う。	3	・1人8回の授業公開を行い、各教科の本質に迫る課題設定や教師の効果的な働きかけについて実践を通して学ぶことができた。その際、元三重北小学校校長の岡本先生や北勢教育支援事務所の中村先生・田中先生などから指導を受け、より多くのことを学び、実践に生かすことができた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習強化週間を学期ごとに実施し、毎日、家庭学習（10分×学年の学習時間）に取り組む児童を90%以上にする。	4	・家庭学習を、各学年の目標時間通り取り組めた児童は、95%であった。今後も、日頃から学習時間を意識するように伝えたり、保護者への啓発を行ったりしていく。
	読書の意欲向上	・朝読書を実施し、毎日の読書を習慣化する。 ・本に親しむ機会を増やし、家庭でも読書をする児童を80%以上にする。	2	・学校アンケートでは、「本を読んでいる」と答えた児童は72%だったが、保護者の回答は51%と親子で差異があった。今後は、読み聞かせボランティア、図書支援員、図書部、PTAが一体となった取り組みを進めていきたい。 ・読書登山週間を年間3回設け、全員が読書登山の本を読んだ。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・各学年の道徳年間計画（別業も含む）を作成する（年間35時間以上）。 ・年間計画に基づいた道徳の授業の実践・記録・研修を行う。	3	・道徳教育の全体計画並びに各学年の全体計画を作成し、全体で共有した。 ・昨年度の研修及び実践をもとに、年間計画に沿って道徳の授業を実践した。今後、成果と課題を整理し、毎年実践を積み上げていく。
	人権教育の推進	・人権教育の全体計画及び人権教育推進計画に基づいた実践を行う。 ・校内人権週間を設定し、人権教育の推進をはかる。	3	・年度当初に人権教育の全体計画並びに人権教育推進計画・人権教育カリキュラムを策定し、全職員で共有した。 ・11月に校内人権週間を設定し、授業参観の際には人権に関する授業を行い、保護者の方にも取り組みの紹介や啓蒙を行うことができた。また、全校討論会では「いじめ」をテーマに話し合い、一人ひとりが安心して過ごせる学校をめざして取り組んだ。
	コミュニケーション力の向上	・友だちとの関わり方や自己肯定感を高める授業づくりや集団づくりをすすめる。 ・定期的にソーシャルスキルトレーニングを実施する。	3	・「学びの共同体」の理念を生かし、日常的に様々な教科や生活の中で聴き合う関係や支え合う関係を大切にできた。 ・定期的に各クラスでソーシャルスキルトレーニングを実施し、関わる力の育成を目指した。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会役員を中心に、あいさつ運動をすすめる。 ・児童議会、全校討論会等で、より良い学校を児童の手で創っていく。	4	・児童議会のメンバーが毎朝校門や教室前であいさつを行ったり、各学年の挨拶の様子を放送で知らせたりしてあいさつ運動に取り組んだ。 ・全校集会や全校討論会を2回行い、自分の行動をふり返る機会をもったり、全校遊びを月2回実施したりして、より良い学校を目指した取り組みを児童たちの手で創ることができた。
体： 健やか な体	体力の向上	・東員縄跳び検定に取り組む。 ・持久力の向上や、やりきる力をつけるために、マラソンに取り組む。	3	・東員縄跳び検定において、4年生が目標を達成することができた。 ・全校で統一したマラソンカードを使用して取り組んだ。朝マラソンだけでなく、休み時間に友だちと誘い合ってトラックを走る等、意欲的な姿が見られた。
	保健教育の推進	・保健教育の年間計画に基づいた実践を行う。 ・食に関する年間指導計画に基づいた実践を行う。 ・いきいき生活リズムの取り組みを、年3回実施する。	3	・保健教育の年間計画に基づき、保健指導を行った。また、専門部活動を通して全校に正しい手洗いの方法を教えた。 ・食に関する年間計画・全体計画に基づき、栄養教諭と共に行なった。 ・いきいき生活リズムの取り組みを年3回実施した。実施後は、結果を集計し『ほけんだより』で周知した。
信： 信頼さ れる学 校	開かれた学校	・授業参観、学校だより、学級だよりなどを通して、教育方針、「16年一貫教育プラン」「子育ての20のポイント」を発信し、理解・共有していただくとともに、保護者、家庭からご意見・ご相談いただける学校づくりを行う。	4	・学級だより、学校だより等のたよりで本校の教育方針、取り組みの様子、子どもたちの様子を発信した。また、保護者からの相談にも真摯に対応することができた。 ・学校アンケートでは、多くの項目で高評価を得ることができた。
	安全・安心な学校	・PTAと連携し、下校パトロールの実施と子どもを守る家の承諾活動を継続し、登下校の安全を図る。 ・事故や災害から身を守るよう交通安全・防犯指導、防災訓練、引き渡し訓練を実施する。	3	・PTAによる登下校の見守りを行い、児童の安全を図り、子どもを守る家の承諾活動を行い、万が一の際に対応できるようにした。 ・学校教育アンケートで「児童の安全対策に取り組み、子どもの生命を大切にしている心や態度を育てている。」の評価項目で肯定的意見が99%であった。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校の様子を見て子どもたちが健全に育っていることがわかる。 ・英語活動が楽しいと児童が感じていることはすばらしい。 ・読書の評価が低いが、『読書をするってこんないいことがあるよ』という心に訴えるものを子どもたちに発信していく必要があるのではないかと。 ・いじめ事象はないとのことであるが、「いじめは犯罪である」と子どもたちが正しい認識を持って行動していくことを望む。 ・電話や面談による保護者からの相談に学校が丁寧に対応していることがわかった。 ・コロナ禍であったが、授業のほかにも様々な活動をしていただいていることに対して頭の下がる思いであり、数値に表れる評価以上のことがある。 ・特異な一年であった本年度の活動を踏まえて、次年度は工夫していかなければならない。
-------------------	---

令和2年度 笹尾東小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：自ら学び、関わる力を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習では、国語を中心に取り組んだ。他にも漢字学習や東員学び検定など短い時間に集中して取り組めるように工夫し、継続した。 ・漢字博士大会当日の正答率は98%を超えた。 ・単元ごとに「ジャンプコース」と「ホップコース」への希望をとり自ら学ぼうとする意欲を育てる算数少人数の編制を行った。
	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で年2回の研究授業を行い、「わからない」を出発点とし、子ども同士の関わり合いを重視した授業研修に取り組んだ。 ・学校評価アンケートの「授業がわかる」の項目において89.2%、5年生対象のみえすディフェックは、算数13.2ポイント、国語6.2ポイント県平均を上回るなど、多くの取組において、概ね達成できた。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを作成・配布し、保護者にも協力を呼びかけ、共に定着を図った。 ・学校評価アンケートの「お子さんは家庭学習の習慣が身につけている」の項目の肯定的回答は84%である。保護者の協力により、忘れてくる子はほとんどいないが、習慣化が課題である。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者ボランティアとはつねの会による読み聞かせを月1回行った。 ・「読書が好きである」と答えた児童は75.1%で例年横ばい傾向が続いている。 ・「ふれあい読書」を冬休みも実施したり、校内ブックウォークを新しく企画し、読書に対する意欲付けの機会とした。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生を招き、道徳授業の1時間の流れを全員が共通理解することができ、道徳カリキュラムに沿った指導を行った。 ・道徳の時間以外にもあらゆる教育活動を通して、児童の心情、判断力、実践意欲、態度等の道徳性を養うことを意識して指導を行った。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画及び各学年の年間計画を策定し、これに基づいて取り組めた。 ・全校統一の取組として運動会の縦割り班で、学級ではペアでほめ言葉のカード交換を行い、人権意識の向上を図った。 ・校内特別支援教育推進委員会を定期的に開催した。
	コミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・QU調査の分析を行い学級づくりを進めた。交流会では、全職員が児童や学級の様子を共通理解し、指導に生かした。 ・SST、ほめ言葉のシャワー、学級遊びなどを目標通りに行い、仲間づくりを進めることができた。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の児童議会の中で、児童会目標を立て、どのようにすれば目標を達成できるのか、話し合うことができた。 ・縦割り班遊びは6年生が計画・運営した。遊びの後には、必ず反省を自分たちの姿について見直すことで次の遊びにつなげた。 ・リーダーフォロワー性の育成のための研修を行い、指導の統一を図った。
体： 健やかな 体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定ほか 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストと水泳は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 ・マラソンは、朝マラソンや試走、記録会本番で98%の児童が参加した。 ・東員なわとび検定では5級達成が69%で目標を下回った。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後のほみがきは毎日実施し、低学年では歯科指導を実施し、歯みがきへの意識を高めることができた。 ・基本的な生活習慣づくりでは、長期休み中の健康貯金を年に2回実施した。 ・食育指導は、給食センターと連携し、全学年で実施した。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで「学校の様子がわかる」は92.9%であった。 ・学校評価アンケートを実施し、結果と学校改善について保護者・地域へ発信を行った。 ・6月と3月に学校評議員会及び学校関係者評価委員会を開催した。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの見直しを行ったが、感染症の影響で全体訓練は実施せず、各学年に応じた個別の訓練を行った。 ・下校安全ボランティア会議を月1回開催し、子どもの安全な下校について話し合い、連携を図った。 ・子どもの怪我や病気については、適切かつ迅速に対応できた。

学校関係者評価委員意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度初めて企画した「ブックウォーク」は子どもたちが楽しく取り組むことができ、本に親しむ機会としても期待できる取組である。 ・あいさつは、取組期間中は意識が高まるが、日常化・習慣化していないのが現状である。このことを課題として捉え、取組の工夫・改善を検討していく。 ・アンケートへの回答が肯定的でない児童については、日常の観察を含め、支援をしていく必要がある。
---------------	---

学校経営理念：「明日が待ちどおしい学校」「子どもが主役の学校」をめざして～児童が来なくなる学校・保護者が通わせたい学校・職員が動きたい学校～
 学校教育目標：仲間とつながり、高め合う子どもの育成

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の習得 ・東員まなび検定 ほか	4	・「聴く」を軸とした学級集団づくり、「分からない」と自分から言える教室づくりを目指し、基礎学力の定着に取り組んだ。 ・「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」のステップ表をもとに、仲間と意見を聞き合い、考え、自分の順番でつなげて話し合う学び合いを大切にしながら、学習内容の習得を重ねた。 ・全学年の算数で少人数授業を実施した。また、11月IRT学力調査の結果では、全学年全教科平均で全国比108.7で全国より高く、大きな成果をあげた。 ・東員まなび検定は、1回目で児童96%が合格した。2回目で100%が合格した。 ・英語の教科化に向け、専任教員が、3・4年生はALTと外国語活動、5・6年生は週2時間（ALT週1）英語教育を行った。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	4	・「児童一人ひとりが主役となる授業の創造」を研修主題に、教職員一人2回ずつの授業公開と、互いに授業を参観し事後検討を行う「ふらっと研修」を中心に研修を進めた。研修会では、運営・記録・まとめ等を輪番制で行った。主体的に研修に取り組み、教職員の資質能力が向上した。 ・質の高い「挑戦状（授業の学習課題）」づくり、「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」をもとにした主体的に対話的で深い学びの創造、一人学びや振り返りで「書くこと」時間を保障することで考える力の育成などについて、授業改善を進めた。 ・研修2年目として、2月に「授業・研修会公開」を行い、一定の評価を得た。 ・全教職員で、IRTの分析を行い、強みと弱みを明確にすることで、授業改善を検討することができた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・臨時休校の際には、子どもたちがしっかりと家庭学習が出来るように、家庭学習の時間割を作成し配布した。 ・家庭学習強化週間を各学期1回実施し、現状を見つめ直す機会にした。 ・家庭学習は、家庭の意識の差が伺える。家庭学習の具体的方法等の家庭への啓発や個別の支援が必要である。家庭学習の習慣化は学力向上に不可欠なため、一層の取組を図る。 ・ノートで学習できる児童を目指し、丁寧な指導と、手本になるような児童のノートをコメントと共に掲示し取り組んだ。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	4	・図書室を訪れ、さまざまな本に触れ、読書の幅を広げたり興味関心を増やすことを目指し、積極的に図書室を訪れる取組を、年間通して行った。図書担当教師や児童図書委員を中心に、全教職員や、時には保護者にも協力を得て、おすすめの本の紹介等を行った。 ・毎朝10分の読書時間を確保し、児童が本に触れる機会を増やした。また、図書の授業がない3～6年生では、週に一度朝読書を図書室で行うこととし、図書室で毎週本を借りるものの習慣化を図った。 ・読書登山の取組を推進し、特に低学年において、達成者が昨年度より10名以上増加した。 ・図書委員会の図書スタンプラリーや読み聞かせ等の活動や、季節のイベントの企画、図書館専門員（リブネット）の活用、貸し出し方法の簡略化により、図書室の利用児童が以前より増加し、本の貸し出し冊数も大幅に増加した。 ・今後も家庭と連携し、読書習慣定着の取組を継続したい。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・全体計画・年間計画を基に全教育活動を通して指導し、道徳的心情を養った。 ・人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 ・道徳の教科化に伴い「考え・議論する道徳」を目指し、研修を行い推進した。 ・11/17～の人権週間には、人権の授業（道徳）及び学級見直しを行った。また、全校たてわり班で「人権フォーラム」を行い、主体的に対話的な授業を子ども達の手で展開しながら、人権についての学びを深めることができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実ほか	3	・人権週間等で人権の授業を実施し、通信等で保護者への啓発を行った。 ・年4回のいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 ・「東員町子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 ・特別支援教育の研修を行い、児童理解と支援のあり方について学び、必要な支援を行った。巡回相談、スクールカウンセラー、発達支援室、町民課等と連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	4	・週一回SSTの取り組みを行い、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。 ・年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。 ・児童会を中心に、年間通して、あいさつ運動に取り組んだ。地域の方や保護者から一定の評価を得た。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会活動 ・縦割り班活動等 ほか	4	・全校活動や委員会活動を通して、高学年のリーダー性や自主性を育てた。上級生の姿が下級生の学びに繋がり、児童から児童へと浸透している。 ・運動会の縦割り種目の活動や、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組み、高学年のリーダー性や企画運営力を培った。 ・児童会を中心としたあいさつ隊によって、全校にあいさつを推進した。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体育の授業では、感染症対策をしながら、運動量確保に留意できた。 ・今年度は、全国体力テストは実施できなかった。 ・運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 ・東員縄跳び検定は、たてわり班での朝なわとびや、休み時間の意欲的な取組等で、はずみをつけて実施できた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・年3回の生活習慣の取り組みと、日常的な保健指導や児童委員会の働きかけにより、1日3回の歯みがきや、丁寧なブラッシングの取組ができた。 ・新型コロナウイルス感染症予防のために手洗い指導を行い、始業チャイムの前の音楽で、休み時間の手洗いが定着した。 ・メディア2時間以内を守れた児童が1学期から2学期へ、4%向上した。今後もルールづくりを呼びかけたい。 ・栄養教諭による給食指導、食育や弁当作り（6年生弁当の日）、放送委員による毎日の献立紹介やクイズにて食に対する関心が高まった。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催ほか	3	・保護者と児童アンケートを実施・分析し、改善、取り組みに生かした。 ・年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAを確立した。 ・学校評議員会を年2回開催し、様々な視点からの意見を頂いた。 ・感染症収束を経て、地域・保護者の方と触れ合う取り組みを再開したい。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	4	・地域の協力（東員町青少年育成会議・城山子ども会・PTAの共催）により交通安全教室を開催し、「ヘルメットをかぶろう！」のテーマで、O×クイズ等を行った。 ・学校安全ボランティア（51人）を組織し下校見守り活動を実施した。 ・PTA交通当番活動の実施により、安全な登校ができた。 ・避難訓練を2回、引渡し訓練を1回実施した。また、毎学期、教職員により、学校施設等の安全点検を行い、危険箇所を迅速に整備した。 ・学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡等、適切に行った。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員意見より
 ・IRTや学び検定の合格率が高い。「児童一人ひとりが主役となる授業」の創造や算数少人数教育の成果が出ている。
 ・「わからない」と言えることはとても大切である。「わからない」とクラスで言えるのが素晴らしい。
 ・たてわり班活動が活発に行われており、学年問わずお互いのことをよく知り合っている、とても良い。
 ・避難訓練で子ども達が意識している「おはしめ（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」が理解しやすくて、良いと思う。
 ・仲間との関わりについては、今後も、自分たちで解決できる子ども達を目指し、保護者と学校が連携し、指導支援していきたい。
 ・マスクをしておいさつ（マスクコミュニケーション）は難しいが、地域でのあいさつが活性化していくよう、これからも取り組んでいきたい。

令和2年度 東員第一中学校 学校自己評価書

学校経営理念：生徒が主役 地域と共に成長する学校

学校教育目標：自主・自立・自律 ～自らの未来を語る生徒を育てる～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知：確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・常時間学習	3	・コロナの情勢もあり、朝の帯学習（小テスト）後の教え合いの場面などを作ることはできなかったが、どのクラスの整然とした雰囲気での学習に取り組むことができた。 ・生徒の困り感をつかむために、岐阜聖徳学園大学玉置崇教授に年間2回来校していただき、研究授業を行った。生徒の質問をすべて教師が答えるのではなく、生徒へ戻し、生徒の考えを繋いでいくことの価値と具体的な方法を学んだ。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・生徒が考える時間を確保するために、不必要な内容を削ぎおとし、教科の本質に迫る授業が多くなった。また、物理的な時間確保と同時に思考環境の保障を行った。具体的には、質問に対して教師が答えるのではなく、その質問を周囲につなげていくことである。時間配分の目標を「生徒：教師＝8：2」とし、教師がつなぎ役として授業を行うことを目指していく。 ・定期テスト分析とIRT分析を経年で行い、強みと弱みを分析できた。テスト期間の放課後には全校で学習時間（F.O.I）を設定し、不必要なつまづきをなくしていこうとしている。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・自主学習ノート、進路に向けたテキスト学習ともに提出状況や内容を確認し、効果的に進めることができた。 ・自主学習ノートの内容が充実したものを紹介するなど、効果的な学習について啓発を行った。 ・家庭での学習量などが適切であるか今後とも考察を継続させていく。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	3	・継続して学級文庫に読書登山の本を置くなどの工夫をした。今後は、家庭での読書習慣充実の方策も探る。 ・図書館ボランティアを導入し、校内図書館の貸し出し冊数は向上が見られた。しかし、まだまだ目標に達しない。生徒会委員会活動を活性化し、手に取りたくなるような図書レイアウトや読書活動の意義や重要性についての普及・啓発に、継続的に取り組みたい。
徳：豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・道徳教科化2年目として「考え、議論する道徳」の充実を目指し効果的な発問を精選した。 ・学年会で教材研究・指導案検討を進め、担任以外も授業ができるようにした。 ・道徳通信を発行し他学年の授業の様子やアイデアを紹介するなど、授業力向上に努めた。 ・使用した指導案、ワークシート、イラストなどを共有できるようにPC、紙媒体などで残した。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権教育カリキュラムに沿って人権教育を進めるとともに、子どもの実態、学校行事の精選などに合わせてその見直しを行った。2学期に人権週間を設け、身の周りにおける様々な人権問題に目を向け、自分ごととしてとらえるきっかけとした。 ・本年度は人権フォーラムとして「楽しいって何？」を考えるHRを開き、みんなで1つのごとに取り組む楽しさとみんなが大切にされる安心感にしっかりと向き合うことができた。 ・東員町子どもの権利条例の学習を通じて、人権に対する考えを深めることができた。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・年3回QU調査を実施し、結果の分析研修を充実させ、学級経営や個々の生徒への具体的な支援につなげた。これにより、どの学級でも一学期よりQU調査の結果が改善された。 ・「下校中の生徒に“こんにちは”と先に声をかけると3～4人の生徒は一斉に挨拶を返してきた。“気をつける！”と声を返すと“ホーイ”だった。何となく気分がよくなった。」と地域の方よりお褒めのことばをよく頂く。今後も、生徒の主体的な取り組みを進めるとともに地域家庭にも呼びかけていくことが大切であると考えている。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	4	・リーダー・フォロワーの育成のねらいやあり方について統一した方向性を示すことで、教職員間での共通理解のもと取り組みを進めることができた。リーダー性を育てるために、事前にHRのシミュレーションを行うことができた。リーダー会を定例化するとともに、行事における縦割りでの合同リーダー会を行い、縦のつながりを強化することができた。
体：健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	4	・コロナ禍のため体力テスト等は見送られたが、制約のある体育の授業に於いて最大かつ最善の取り組みを進めることができた。 ・部活動に於いては、部活動ガイドラインにもとづき各部で充実した活動を行うことができた。また、キャプテン会が中心となって、新入生に向けたオリエンテーションや壮行会を企画した。定期的に発行する生活指導便りや保健室便り、時期に応じた生活習慣や健康維持・増進、感染対策などに関する注意喚起を行った。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・命について考える学習は、コロナ禍のため講師を招聘しての講演会が中止となったが、各クラスに於いて、各学年・クラスの実態に合わせて進めることができた。 ・検診は全て完了し、保健だよりの定期発行、保健室の整備を推進した。 ・継続して新型コロナウイルス感染症や食物アレルギーなどへの対応の職員研修を充実していく。
信：信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	4	・学校だよりを定期的に発行すると共に、生徒の「プリント配り隊」を組織して学校関係者へ学校の様子を学期に1回発信した。 ・コロナ禍のため学校評議員会を年2回、関係者評価委員会を年2回、また授業参観にも関係者の方々へ参観をしていただいた。 ・アンケートによると学校の意図やねらいが保護者の91%に理解されている。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・PTAや職員による登下校指導を行った。交通安全の啓発に関しては、今年度は各学年で自転車の交通安全について授業を行い、登下校中に起こりうる危険や命の大切さについて学ぶ機会を設けた。命に係わる危険な事故0であったが、今後も交通安全の啓発を続ける。 ・年2回の避難訓練を実施した。生徒たちは、緊急時に迅速に避難することが習慣化している。また、各家庭の避難先についても確認し、緊急時の対応の準備を進めている。今後はより様々な非常時の訓練や避難所開設を教員・生徒ともに研修していきたい。

学校関係者評価委員意見より

・学校がとてもきれいに保たれている。いつ来ても自転車が無数に並べられている。こういう姿が一中の落ち着いた子どもたちの様子につながっていると感じている。
・教師同士が参観し合う体制が保障される中で研修が深まり、お互いに切磋琢磨できている。また、協同的な学びには何が必要なのか、学び合うための課題はどんなものがあるのか等、よく研究されている。
・感染症に関して偏見や差別に対する道徳等の授業をしっかりと行っていただいている。学校として同じ足並みで取り組んでいることに意義がある。
・コロナ禍でかなりの制約がある中での教育活動であったと思う。しかし、子ども達はコロナ禍だからこそ、逆に団結して体育祭や修学旅行、学年の取り組みに頑張っていた。
・新入生は上級生を見ると年齢差以上の圧力を感じる子どもがいる。そこで、ギャップを払拭する色々な取り組みをしていただいていたが、特に縦割りの取り組みによって低学年の子どもは安心できていると思う。保護者アンケートの「安心して学校に任せられる」が90%を上回っているのは頷ける。
・職員の時間外勤務について、子どものために、教師がクリエイティブな仕事ができるようにするためには、教師の健康な体の保持が欠かせません。仕事の精選と効率化を進めてほしい。
学校評議員さん、校区小学校の校長に参加していただき、様々なご意見を聞かせていただくことができた。子どもたちの頑張る姿、学校の取り組みから見て、自己評価がやや厳し過ぎるとのご意見をいただいたが、まだまだ学校とくべき事たくさんあるということから、ご理解をいただいた。あいさつを広げる、生徒主体の活動を創り出す、安全対策の徹底など、今後も引き続き取り組まなければならないことを、はっきりとさせていただいた。

令和2年度 東員第二中学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知性豊かで、ひびきあい、喜び合い、ねばり強くやりぬく生徒を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	3	・今年度は学調は行われず、IRTテスト・みえスタの実施となったが、概ね全国・県平均を上回ることができた。 ・朝学習や放課後学習、定期テスト前の二中タイム、基礎学力の定着・向上を図るための取り組みを継続して実施することができた。 ・少人数指導では、習熟度別指導を行うなど、学力層Dの割合を減らす取組を行うことができた。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	4	・IRTやみえスタディチェックの結果について分析を進め、強みや弱みを把握することに努め、授業改善、教材開発、定期テストの工夫などに努めた。 ・前期は全教員が授業を公開し、後期は新採教諭の授業を全員で見る研修を行い、「主体的、対話的で深い学び」について研修を進めた。また、新学習指導要領実施に合わせ、評価についての研修を行い、評価と指導の一体化について学んだ。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・基礎学力の定着・向上のために、課題（宿題やテキスト）を出し、丁寧に点検をおこなうなど、家庭学習の定着に努めた。 ・家庭学習ができない生徒や課題提出ができない生徒については、個別指導をねばり強く行った。 ・家庭学習の量等については、個に応じた配慮を行った。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・朝読書については、日常的に実施することができたが、家庭での読書習慣に結びつけるまでには至らなかった。学調質問紙などから明らかになった。 ・生徒会図書委員会を中心に貸し出し及び学級文庫を設置するなど、読書週間が身に付くよう工夫したが、時間的な関係から難しかった。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	2	・コロナによる休校のため、教科の時間を優先的に進めたため、年間35時間には届かなかったが、全教員が授業を受け持つなど、全校体勢で取り組めた。 ・視聴覚教材を含めて教材（資料）開発に努め、生徒の実態に対応して教材選択を行うなど、ICT化による教材の蓄積を図った。 ・年間計画に基づきつつ、学校行事や学級の実体に応じて、道徳の指導内容を工夫しながら取り組むことができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・年間計画に沿って、人権学習に取り組むことができた。 ・日常の学校生活や教育活動・行事を通じて、「人権」を尊重した生き方の指導に努めた。 ・いじめをはじめとする人権を侵害する事案が少なからずあった。情報収集及び交流を欠かさず、生徒に常に寄り添いながら、ねばり強く解決に向けて取り組んだ。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	4	・PTAの活動と運動して、生徒会であいさつ運動「おはようTuesday」を計画的に実施することができた。日常生活の中でもよくあいさつができていた。 ・定期的実施するQ・Uについての結果を分析し、学級づくりや教育相談に活用することができた。また、学校全体での情報交流・研修を行うことができた。
	児童生徒の自主的 活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	4	・体育祭は規模を縮小、合唱祭は中止となるなど生徒会が主体となつての取組が例年通りに実施することができなかった。その中で、できないから諦めるのではなく、どうしたらできるのかを工夫し、様々なアイデアを出すことでリーダーとしての成長が見られた。特に、上級生がリーダーシップをとり、縦割りの活動を多く取り入れる事で集団としての力が高まった。 ・日常の委員会活動においては、給食や掃除、授業への取り組みを積極的に実施し、充実したものにすることができた。 ・限られた時間の中で部活動であるが、充実した活動ができた。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体力テストの結果から、握力やボール投げなど身体的な基礎になる部分の体力低下があることから、基礎的な体力向上を今後も継続的に行っていく必要がある。 ・体育の授業、部活動を通じて体力の向上に努めた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	4	・生徒の心身の発達や健康について留意した活動を行うことができた。アレルギー対応も丁寧に行うことができた。 ・学校栄養教諭による家庭科教師及び担任とのコラボ授業を行うことで意識の向上を図った。 ・定期的に「保健だより」を発行し、健康保持のための啓発をおこなうことができた。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・年間の計画通り、各種調査を実施した。 ・学校自己評価を行うことで、継続的な改善活動をおこなうことができた。 ・学校評議員会を予定通り開催し、広く意見を聞くことができた。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	2	・コロナ休校もあり、今年度は交通安全教室や防犯・防災教室、訓練を実施することができなかった。 ・スマホに潜む危険性を、講師を招聘し実施した。今後も繰り返し指導していく必要を切に感じている。 ・怪我等に対しては、適切な対応ができた。

学校関係者評価委員 意見より	<p>◎外で出会うでもよく挨拶をしてくれる。コロナ休校が終わって、生徒が学校へ通うようになった時、地域にも子どもの声に戻ってきて元気をもらえた気がした。</p> <p>◎読書量が減っていると聞くと、新聞を使つての授業はしないのか。ネットニュースだけでなく、幅広く多くの知識を得ることも含め、紙の活字情報の方が共有できるのではないかな。</p> <p>◎休日に外に出ている子どもをほとんど見かけない。みんな、家にもっているのだろうか？何をしているのだろうか？コロナの関係だろうか。</p> <p>◎授業中しっかりと課題に向き合っている姿があった。距離をとりながらのグループ学習にも取り組んで、頑張っている姿を見ることができた。</p> <p>◎落ち着いて、授業を受けている姿が見られた。</p>
-------------------	--

資料編

目 次

	ページ
1 教育委員会の審議内容（議案）	1
2 教育委員会の審議内容（報告）	2
3 教育委員会の審議内容（後援）	3
4 令和2年度 児童・生徒・園児数、学級数	4
5 児童、生徒数の推移	5
6 令和2年度 教職員数	5
7 学校教育施設の状況	6
8 学校教育施設一覧	6
9 社会教育施設一覧	7
10 指定文化財一覧	7
11 社会教育施設の利用状況	8
12 図書館の利用状況	9

1 教育委員会の審議内容（議案）

番号	件名	提出年月日
1	東員町学校の管理に関する規則の改正について	令和2年4月22日
2	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第1号）について	令和2年5月21日
3	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第2号）について	
4	東員町立保育所勤務職員の勤務時間に関する規程の一部改正について	
5	東員町奨学金の給付について	令和2年6月22日
6	東員町立保育所等苦情解決に関する要綱について	
7	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第3号）について	令和2年7月28日
8	令和3年度使用 教科用図書の採択について	
9	教育委員会の委員の任命について	
10	令和元年度東員町教育委員会事務事業点検・評価報告書について	令和2年8月27日
11	G I G Aスクール構想校内通信ネットワーク等整備工事請負契約の締結について	
12	財産の取得について	
13	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第4号）について	
14	東員町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部改正について	令和2年11月26日
15	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第5号）について	
16	東員町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	
17	東員町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	令和2年12月25日
18	東員町教育関係補助金等交付要綱の一部改正について	
19	令和3年度東員町教育基本方針（案）について	令和3年2月26日
20	令和2年度東員町教育予算（一般会計補正予算第8号）について	
21	令和3年度東員町教育予算（一般会計当初予算）について	
22	東員町立保育所設置条例の一部改正について	
23	東員町子ども・子育て支援法施行細則の一部改正について	
24	東員町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	
25	東員町学校施設の開放に関する条例の一部改正について	
26	東員町体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	
27	東員町教育委員会事務局規則の一部改正について	令和3年3月29日
28	東員町学習者用タブレット端末運用規程の制定について	
29	令和3年度東員町教育委員会職員の任免について	

2 教育委員会の審議内容（報告）

番号	件名	提出年月日
1	令和元年度中学校卒業生進路状況報告について	令和2年4月22日
2	令和2年度教育委員会事業概要について	
3	就学援助について	令和2年7月28日
4	図書館休館及び貸出期間の延長について	令和2年8月27日
5	令和2年9月議会定例会の報告について	令和2年9月24日
6	東員第一中学校移転事業について（経過報告）	
7	東員町町民プールについて（経過報告）	
8	学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について	
9	東員町16年一貫教育プランについて	
10	東員町教育関係事業補助金について	令和2年10月27日
11	第53回東員町文化祭について	
12	G o T oミュージカルについて	
13	令和元年度問題行動等調査結果の報告について	令和2年11月26日
14	町民プール在り方検討結果について	
15	第53回町民駅伝大会について	
16	令和2年12月議会定例会の報告について	令和2年12月25日
17	年末年始の図書の貸出期間延長について	
18	令和3年度の幼稚園・保育園の入園について	令和3年1月26日
19	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取組について	
20	令和3年3月議会定例会の報告について	令和3年3月29日
21	令和2年度総合学力調査の結果について	

3 教育委員会の審議内容（後援）

番号	件名	提出年月日
1	令和2年度 三重県工業高校生フェア	令和2年5月21日
2	第11回 はたらく人にありがとう メッセージ募集	
3	第63回三重県学校保健安全研究大会 第41回東海ブロック学校保健研究大会	令和2年6月22日
4	三重キッズダンスチャレンジ2020	令和2年7月28日
5	馬ふれあい&乗馬教室	
6	第7回三重県障害者フライングディスク競技大会 兼中日本障害者フライングディスク競技選抜大会	令和2年9月24日
7	WEB版 みえ介護フェア2020	
8	第26回みえ県民文化祭地域自主プログラム吹奏楽の祭典in桑員	令和2年10月27日
9	謎解きウォーキング「アルクエスト」	令和2年11月26日
10	パープルライトミニミニコンサート	
11	第1回焼きよし杯学童軟式野球大会	
12	舞劇「化け蜘蛛」～オリュンポス神々の詩～	令和3年1月26日
13	三重県立いなべ総合学園高等学校吹奏楽部第14回定期演奏会	
14	第28回春の文協まつり	令和3年2月26日
15	Dance studio a☆mieux 9th Dance Performance	
16	謎解きウォーキング「アルクエスト」	令和3年3月29日

4 令和2年度 児童・生徒・園児数、学級数

()は特別支援学級：外数 ※学級数は実学級数 令和2年5月1日現在

小学校	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三和	(3) 25	1	(0) 27	1	(1) 23	1	(1) 25	1	(0) 27	1	(0) 32	1	(5) 159	(1) 6
稲部	(2) 36	2	(3) 42	2	(4) 26	1	(1) 41	2	(1) 30	1	(0) 29	1	(11) 204	(3) 9
神田	(3) 77	3	(4) 82	3	(4) 78	2	(3) 79	2	(2) 76	2	(3) 90	3	(19) 482	(5) 15
笹尾西	(0) 34	1	(0) 23	1	(1) 29	1	(1) 38	1	(0) 23	1	(1) 44	2	(3) 191	(1) 7
笹尾東	(0) 30	1	(2) 45	2	(2) 38	1	(2) 29	1	(5) 31	1	(1) 41	2	(12) 214	(2) 8
城山	(1) 24	1	(3) 25	1	(5) 20	1	(2) 25	1	(1) 31	1	(3) 26	1	(15) 151	(3) 6
合計	(9) 226	9	(12) 244	10	(17) 214	7	(10) 237	8	(9) 218	7	(8) 262	10	(65) 1401	(15) 51

中学校	1年		2年		3年		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
東員第一	(8) 147	5	(3) 131	4	(3) 134	4	(14) 412	(3) 13
東員第二	(3) 71	3	(3) 84	3	(0) 95	3	(6) 250	(1) 9
合計	(11) 218	8	(6) 215	7	(3) 229	7	(20) 662	(4) 22

幼稚園	3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三和	7	1	10	1	7	1	24	3
稲部	15	1	19	1	16	1	50	3
神田	30	1	35	1	25	1	90	3
笹尾西	6	1	13	1	16	1	35	3
笹尾東	8	1	8	1	11	1	27	3
城山	6	1	9	1	12	1	27	3
合計	72	6	94	6	87	6	253	18

保育園	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数
みなみ	3	1	13	4	14	3	15	1	6	1	13	1	64	11
いなべ	2	1	13	4	21	4	24	2	30	1	15	1	105	13
東員	0	0	17	5	20	4	48	3	46	2	61	3	192	17
笹尾第一	3	1	6	2	16	3	18	1	21	1	15	1	79	9
笹尾第二	2	1	12	3	16	3	23	2	28	1	29	1	110	11
城山	0	0	14	4	16	3	19	1	12	1	15	1	76	10
合計	10	4	75	22	103	20	147	10	143	7	148	8	626	71

5 児童、生徒数の推移

令和2年5月1日現在

小学校	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
三和	205	199	186	195	184	182	173	174	167	164	151	141	134	125	118	105
稲部	216	218	220	236	226	214	209	218	224	215	222	239	236	249	241	242
神田	380	412	397	412	454	463	441	477	501	501	499	511	523	519	528	529
笹尾西	182	203	189	173	179	176	169	183	178	194	181	195	180	183	173	161
笹尾東	258	261	235	223	218	206	202	208	226	226	224	225	224	206	189	180
城山	199	189	176	173	172	175	170	166	165	166	164	154	154	158	157	161
合計	1,440	1,482	1,403	1,412	1,433	1,416	1,364	1,426	1,364	1,466	1,441	1,465	1,451	1,440	1,406	1,378

R3以降は推計

中学校	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
東員第一	380	409	408	397	380	382	370	398	399	426	445	449	446	424	442	434
東員第二	298	326	318	332	328	317	315	287	275	256	277	283	307	288	294	287
合計	678	735	726	729	708	699	685	685	674	682	722	732	753	712	736	721

R3以降は推計

6 令和2年度 教職員数

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	非常勤講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等	用務員	計	
三和	1	1	10	4	1	0	0	1	18	4	2	1	7	25
稲部	1	1	16	3	1	1	0	1	24	3	4	1	8	32
神田	1	1	24.5	3	1	0	0	1	31.5	3	8	1	12	43.5
笹尾西	1	1	11	2	1	0	0	1	17	3	2	1	6	23
笹尾東	1	1	12	3	1	0	0	1	19	3	4	1	8	27
城山	1	1	12	4	1	0	0	2	21	4	5	1	10	31
合計	6	6	85.5	19	6	1	0	7	130.5	20	25	6	51	181.5

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	非常勤講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等	用務員	計	
東員第一	1	1	25	7	1	0	0	1	36	4	4	1	9	45
東員第二	1	1	16.5	6	1	1	0	1	27.5	7	3	1	11	38.5
合計	2	2	41.5	13	2	1	0	2	63.5	11	7	2	20	83.5

※1 数値は、学級数及び教職員定数（国・県費・町費）、講師等配置確認表から取得。

※2 教諭には再任用、臨時的任用講師を含む。

※3 町費教職員非常勤講師のうち29人は、県費教職員非常勤講師を兼務する。

※4 用務員には委託職員（（社）シルバー人材センター）を含む。

幼稚園	園長	副園長	教諭		計
			正規	フルタイム	
三和	1	(1)	3	0	4
稲部	1	1	3	0	5
神田	1	(1)	3	0	4
笹尾西	1	1	3	0	5
笹尾東	1	1	3	0	5
城山	1	1	3	0	5
合計	6	4(2)	18	0	28

保育園	園長	副園長	保育士		調理員	計
			正規	フルタイム		
みなみ	(1)	1	3	6	1	11
いなべ	(1)	(1)	4	8	1	13
東員	(1)	1	8	9	2	20
笹尾第一	(1)	(1)	3	4	1	8
笹尾第二	(1)	(1)	5	5	1	11
しろやま	(1)	(1)	2	7	1	10
合計	(6)	2(4)	25	39	7	73

7 学校教育施設の状況

小学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
三和	6	1	7	12	3,030	S50	801	S54	20,011
稲部	9	3	13	7	2,917	S45	802	S56	17,471
神田	15	5	20	9	3,231	S48	790	S51	16,717
笹尾西	7	1	10	16	3,918	S53	725	S53	20,483
笹尾東	8	2	10	14	4,470	S57	1,095	S58	18,498
城山	6	3	9	15	5,473	S63	983	S63	22,128

中学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
東員第一	13	3	17	25	6,135	S41	1,536	S54	32,919
東員第二	9	1	12	27	7,514	S58	1,394	S58	28,887

幼稚園 保育園	学級数	教室数	園舎		校地面積 (㎡)
			面積(㎡)	建築年	
三和	3	3	1,573	H14	8,684
みなみ	11	6			
稲部	3	3	1,100	H17	4,536
いなべ	13	6			
神田	3	3	2,068	H11	7,886
東員	17	9			
笹尾西	3	3	1,076	S56	8,156
笹尾第一	9	8			
笹尾東	3	3	1,178	H20	4,016
笹尾第二	11	6			
城山	3	3	962	H2	6,842
しろやま	10	6			

8 学校教育施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	備考
三和幼稚園	511-0255	東員町大字長深690番地	0594-76-5319	
みなみ保育園		東員町大字長深661番地	0594-76-2193	
稲部幼稚園	511-0244	東員町大字大木1075番地	0594-76-5318	
いなべ保育園				
神田幼稚園	511-0242	東員町大字六把野新田111番地	0594-76-5317	
東員保育園				
笹尾西幼稚園	511-0231	東員町笹尾西2丁目31番1	0594-76-6681	
笹尾第一保育園				
笹尾東幼稚園	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-3150	
笹尾第二保育園				
城山幼稚園	511-0233	東員町城山1丁目44番	0594-76-4433	
しろやま保育園				
三和小学校	511-0255	東員町大字長深700番地	0594-76-2292	
稲部小学校	511-0244	東員町大字大木944番地	0594-76-2004	
神田小学校	511-0242	東員町大字六把野新田100番地	0594-76-2305	
笹尾西小学校	511-0231	東員町笹尾西2丁目1番1	0594-76-2847	
笹尾東小学校	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-6521	
城山小学校	511-0233	東員町城山1丁目48番	0594-76-9046	
東員第一中学校	511-0242	東員町大字六把野新田557番地	0594-76-2303	
東員第二中学校	511-0233	東員町城山2丁目1番	0594-76-5152	
東員町学校給食センター	511-0241	東員町大字鳥取1652番地1	0594-86-2200	

9 社会教育施設一覧

施設名	住所	電話番号	施設概要
東員町総合文化センター	511-0251 東員町大字山田1700番地	0594-86-2816	ホール 702席、図書館 106,426冊、駐車場 265台
笹尾コミュニティセンター	511-0232 東員町笹尾東2丁目5番3	0594-76-8233	多目的ホール、研修室（和室）、2階会議室（1・2・3）、調理室、2階研修室、2階南会議室（笹尾連絡所2階）
東員町郷土資料館	511-0233 東員町城山1丁目48番	—	展示数 98点
東員町武道館	511-0251 東員町大字山田1600番地	—	柔道場、剣道場
東員町中央球場	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	両翼 91m、センター 120m、照明 6基96灯
城山球場	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	両翼 80m、センター 100m
東員町中央テニスコート	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	3面（セミアンツーカー）
城山テニスコート	511-0232 東員町城山1丁目47番1	—	6面（ハードコート2面、オムニコート4面）
東員町総合体育館	511-0251 東員町大字山田1600番地	0594-86-2819	アリーナ、卓球室、トレーニングルーム、観客室582席 会議室、更衣室、ミキサー室
東員町民プール	511-0257 東員町大字北大社428番地6	0594-76-7463	50mプール、流水プール、幼児用プール
東員町スポーツ公園 陸上競技場	511-0257 東員町大字北大社323番地	0594-76-0481	全天候ウレタン舗装400mトラック、インフィールド（高麗芝）74m ×105m、固定席1,954席、サブスタンド（芝）4,000人
城山多目的グラウンド	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	サッカーコート58m×90m、照明3基9灯
長深グラウンド	511-0255 東員町大字長深3583番地	—	多目的グラウンド 11,759㎡

10 指定文化財一覧

指定	種別	番号	名称	所在地	指定年月日	概要	
県指定	有形	美術 工芸品	1	絹本着色景川和尚像	東員町大字長深2525番地	昭和27年3月13日	明応9年（1500年）仲春に描かれ伝統的な頂相作家の筆と思われる。縦105cm、横54cm。景川和尚（1425～1500）は臨済宗の高僧である。
		美術 工芸品	2	木造薬師如来坐像	東員町大字穴太731番地	昭和32年10月10日	貞観年間（870年頃）の名工作。蓮華座上に結伽跏座した高さ約90cmの一木造りの仏像。左手に薬つぼを持ち右手は施無畏の印を結ぶ。
	無形	無形 民俗	1	猪名部神社上げ馬神事	東員町大字北大社797番地	平成14年 3月18日	毎年4月の第1土・日曜日に開催される。鎌倉時代、員弁郡司・員弁三郎行綱が若者の士気を鼓舞するために行ったのが始まり。
町指定	記念物	天然 記念物	1	トウインヤエヤマザクラ	東員町城山1丁目18番16	平成 8年 4月17日	八重咲きのヤマザクラで奈良の八重桜に似ている。葉や花柄に毛がなく、めしべが2本あるものもある非常に希少な種。
		天然 記念物	2	山田半ノ木谷イヌナン	東員町笹尾東1丁目28番5	平成10年 4月 3日	野生ナシの中で最も原始的な種。4月に白い花が咲き、6月には直径1cmの果実を結ぶ希少種。
		天然 記念物	3	トウインヤエヤマザクラ（第2号）	東員町城山1丁目47番7	平成10年 4月 3日	第1号と同種のヤマザクラ。第1号より花の色が薄く、開花時期も例年1～2週間ぐらい早い。
		天然 記念物	4	観音もみじ	東員町大字瀬古泉993番地	平成24年 3月29日	生育地の古事を有する古木で、主幹が株元から3.9mは横伏しその後は7本立ちとなっている。樹齢約300年とされる。
	無形	無形 民俗	1	六把野獅子舞	東員町大字六把野新田698番地	平成11年10月9日	五穀豊穡、悪魔祓いの祈禱神事として六把野御厨神明社に奉納される。

1.1 社会教育施設の利用状況

(1) 総合文化センター

(単位：人)

	ひばりホール		図書館					展示室
	回数	入館者	入館者	利用者	貸出冊数	利用団体数	団体貸出冊数	
R2	62	3,616	64,124	30,157	155,127	28	899	2,344
R1	133	14,559	93,947	37,037	178,813	28	872	2,931

	楽屋		リハーサル室		第1研修室		第2研修室(和室)	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
R2	138	861	442	4,870	73	729	111	1,078
R1	274	1,878	504	6,120	171	2,346	173	2,200

	第1講習室		第2講習室		第3講習室		美術工芸室	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
R2	243	4,084	192	2,726	131	913	135	2,385
R1	239	4,595	221	3,154	113	1,287	190	3,024

	調理実習室		陶芸室		展示コーナー	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
R2	103	2,217	112	979	64	2,706
R1	192	3,295	126	1,087	99	2,759

(2) 笹尾コミュニティーセンター、郷土資料館

(単位：人)

	1階多目的ホール		1階研修室(和室)		2階会議室1・2・3	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
R2	558	8,912	19	127	372	3,144
R1	662	11,673	54	434	554	5,370

	2階調理室		2階研修室		笹尾連絡所2階会議室	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
R2	0	0	12	50	96	1,167
R1	10	91	20	23	122	1,310

	郷土資料館
	見学者数
R2	142
R1	89

(3) 社会体育施設

(単位：人)

	総合体育館			武道館	中央テニ	中央球場	城山テニ	城山球場
	アリーナ	トレーニング室	卓球室					
R2	21,879	4,330	3,175	12,340	1,914	3,612	12,250	2,072
R1	31,229	23,423	5,324	15,421	2,095	2,965	16,927	3,625

	城山多目的 グラウンド	笹尾西小ナイター	長深グラウンド	陸上競技場			町民フール
				グラウンド	トレーニング室	多目的 グラウンド	
R2	4,345	0	2,709	17,118	0	2,757	0
R1	6,545	0	2,347	31,731	45	7,655	24,347

	学校施設(体育館)							
	神田小	稲部小	三和小	笹尾西小	笹尾東小	城山小	一中	二中
R2	5,698	7,217	4,635	4,392	5,659	4,935	6,475	7,542
R1	7,180	8,759	8,685	6,885	7,897	6,953	7,638	11,177

1 2 図書館の利用状況

(1) 図書館資料

(単位：冊・点)

区分	R2			R1		
	一般書	児童書	計	一般書	児童書	計
郷土資料	1,090	—	1,090	1,081	—	1,081
総記	4,148	411	4,559	4,082	397	4,479
哲学・宗教	2,617	293	2,910	2,542	281	2,823
歴史・地理	6,270	948	7,218	6,151	931	7,082
社会	9,729	1015	10,744	9,330	973	10,303
自然	5,058	2,116	7,174	4,847	2,050	6,897
工業	6,448	861	7,309	6,208	836	7,044
産業	2,651	546	3,197	2,557	535	3,092
芸術	8,240	1,344	9,584	8,012	1,310	9,322
言語	1,187	320	1,507	1,160	315	1,475
文学	30,447	11,564	42,011	29,808	11,230	41,038
絵本	—	11,450	11,450	—	11,052	11,052
紙芝居	—	744	744	—	738	738
計	77,885	31,612	109,497	75,778	30,648	106,426
雑誌		6,195	6,195	4,419		4,419
ビデオ、DVD		756	756	735		735
カセットテープ		55	55	55		55
CD		41	41	41		41
計		7,047	7,047	5,250		5,250

(2) 図書館利用等各種指数

区 分	R2		R1	
	町内①	計 ②	町内①	計 ④
登録者数 (人)	町内①	22,704	町内①	22,433
	町外	13,123	町外	12,947
	計 ②	35,827	計 ④	35,380
貸出冊数 (冊)	個人③	155,127	個人③	178,813
	団体	899	団体	872
	計 ④	156,026	計 ④	179,685
町人口 (3月末)	⑤	25,957		25,931
貸出利用者数	⑥	30,157		37,037
貸出利用団体数	⑦	28		28
蔵書冊数	⑧	109,497		106,426
登録率 (町内在住者)	①/⑤ (%)	87.5		86.5
登録者1人あたり貸出冊数	③/②	4.3		5.1
登録者1人あたり貸出回数	⑥/②	0.8		1
1回当たり貸出冊数	③/⑥	5.1		4.8
蔵書回転率	④/⑧ (回)	1.4		1.7
予 約 件 数	窓 口	2,666		3,447
	インターネット	1,977		1,846
レファレンスサービス (文献調査含む)		3,571		4,593
蔵書平均単価 (円)		2,000		2,006

(3) 年齢別登録者数

(単位：人)

区分	R2			R1		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	104	124	228	125	127	252
7～9歳	290	256	546	298	283	581
10～12歳	360	397	757	337	404	741
13～15歳	351	422	773	363	423	786
児童計	1,105	1,199	2,304	1,123	1,237	2,360
16～18歳	409	464	873	444	479	923
19～22歳	668	717	1,385	672	726	1,398
23～29歳	1,332	1,581	2,913	1,387	1,640	3,027
30～39歳	2,915	3,907	6,822	2,964	4,021	6,985
40～49歳	2,479	4,407	6,886	2,293	4,289	6,582
50～59歳	1,273	3,245	4,518	1,269	3,207	4,476
60～69歳	1,725	3,086	4,811	1,788	3,034	4,822
70歳以上	2,546	2,769	5,315	2,326	2,481	4,807
一般計	13,347	20,176	33,523	13,143	19,877	33,020
合計	14,452	21,375	35,827	14,266	21,114	35,380
構成比(%)	40.3	59.7	100	40.3	59.7	100

(4) 年齢別個人利用状況

(単位：冊)

区分	R2			R1		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	6,182	4,984	11,166	7,563	6,242	13,805
7～9歳	6,026	7,921	13,947	7,337	9,834	17,171
10～12歳	4,160	6,438	10,598	3,979	7,935	11,914
13～15歳	845	1,388	2,233	745	1,625	2,370
児童計	17,213	20,731	37,944	19,624	25,636	45,260
16～18歳	349	299	648	515	421	936
19～22歳	419	705	1,124	616	871	1,487
23～29歳	1,252	1,801	3,053	515	2,283	2,798
30～39歳	3,370	21,367	24,737	3,604	24,788	28,392
40～49歳	5,507	18,464	23,971	6,369	22,302	28,671
50～59歳	4,174	7,880	12,054	3,655	9,953	13,608
60～69歳	8,313	15,488	23,801	10,762	18,377	29,139
70歳以上	16,676	11,119	27,795	17,680	10,842	28,522
一般計	40,060	77,123	117,183	43,716	89,837	133,553
合計	57,273	97,854	155,127	63,340	115,473	178,813
構成比(%)	36.9	63.1	100	35.4	64.6	100

(5) 相互貸借

(単位：冊)

区分		R2	R1
貸出	県内図書館へ	643	643
	県外図書館へ	10	4
	計	653	647
借受	県内図書館から	311	255
	県外図書館から	3	0
	計	314	255

(6) 除籍状況

(単位：冊)

区分	R2	R1
リサイクル会等	0	4,294
不明図書・雑誌	0	0
紛失・損傷図書	3	8
ビデオ、DVD	4	5
計	7	4,307

(7) 図書館行事

行事名	開催日	参加人数(人)
読み聞かせ会	R3.1月～第2土・第4土	子ども35、大人36
不用図書リサイクル会	中止	
児童向け人形劇	中止	